

『同志社文學』總目次



第一号 (明治20・3・12)

会告

第一号 (明治20・4・30)

文備拡張論  
論說

漢文学バザル可ラス

不為也非不能也

同志社文学雑誌ノ発刊ヲ祝ス

道義ト心靈ニ闘スル真理ノ

客觀的標準ノ切要

深夜ノ感

物理的原因ト政治トノ關係

豈ニ祝セサルヲ得ン哉

スタンフォード  
近藤又三郎

岸本能武太  
安永 稔

山中 百  
奥村禎次郎

木村 鎮太  
松浦 政泰

吊亡友大森君文  
仏国女傑謝錄多可的小伝

記事

○同志社大猪狩  
○同志社演説会  
○同志社文学會々則  
名表

○同志社演説会  
○同志社文学會々則  
○同志社文学會々員会友及役員氏

39 35 34 30 26 23 19 15 12 6 4 1

浮田 和民  
若松兎三郎

岸本能武太

安永 稔

山中 百

奥村禎次郎

木村 鎮太

松浦 政泰

吊亡友大森君文  
仏国女傑謝錄多可的小伝

記事

○同志社大猪狩  
○同志社演説会  
○同志社文学會々則  
名表

○同志社演説会  
○同志社文学會々則  
○同志社文学會々員会友及役員氏

39 35 34 30 26 23 19 15 12 6 4 1

文章論  
論說

同志社青年会ノ設立ヲ待ツ

上帝の授理は巧なるかな

経済学ノ進化

上帝の授理は巧なるかな

経済学ノ進化

公私ノ弁

日本将来ノ基督社會

人種改良論に關し雜婚の時期に付一言す

猿猴的ノ日本

第十九世紀ノ文明ヲ怪ム

英國政黨の起源

記事

○同志社運動会  
○同志社學理講究会  
○同志社演説会

○同志社文學會々則  
○同志社文學會々員会友及役員氏

39 35 34 30 26 23 19 15 12 6 4 1

森田久万人  
中瀬古六郎

花畠 健起

高橋 善作

桑田 常造

阿部 政恒

古賀鶴次郎

木山巖太郎

村田 勤

西本元太郎

大西 祝

記事

○同志社運動会  
○同志社學理講究会  
○同志社演説会

○同志社文學會々則  
○同志社文學會々員会友及役員氏

39 35 34 30 26 23 19 15 12 6 4 1

『同志社文学』総目次

英學生募集

51

名表

名表

○同志社大猪狩  
○同志社演説会  
○同志社文學會々則  
○同志社文學會々員会友及役員氏

43

晚霞丘戰士ノ存命者ヲ祝ス  
ダニエルウエブストル〔演〕  
望月興三郎〔訳〕

42

○同志社運動会  
○同志社學理講究会  
○同志社演説会

3

『同志社文学』総目次

広告  
英学生募集  
会告

第二号

(明治20・5・21)

論説

演説文章ノ効用

稗史小説ノ利害ヲ論シテ明治ノ少年ニ示ス

地磁石

我同窓諸子ニ望ム

心体兩慾ノ動力タルヲ論ス

教育ノ必要ヲ論ズ

如何なる文備をなす可き乎

英國政黨の起源(一)

雑録

孤墳之夕

郷友某ニ与ヘ基督教ヲ弁明スル書

ソル・ウォートル伝

記事

○同志社學理講究会

○同志社演説会

○遺漏及入退会

々員会友  
前号正誤

47

43 41 37 34

宗教論

基督教信徒時機ヲ誤マル勿レ

書生ノ愛國心

天國及ヒ地獄ノ弁

経済学ノ進化(二)

馬場定二郎

浮田和民

安田保太郎

山中百

瀧野弥一郎

馬場定二郎

横田安止

榎原勘一郎

伊東友吉

足立通衛

高橋政泰

大西祝

柏木善作

延年

増田雅太郎

増田雅太郎

桐本浅之助

上田周太郎

岸本能武太

波多野培根

木村鎮太

岸本能武太

洛内外觀ルヘキモノ

「クリスチヤン・スチューデント」国ニ遊ブ

自脩斎日誌序

記事

○同志社演説会

○同志社英学校・神学校規則○入退会

々員会友 ○同志社文学会々則

○同志社文學会々則

○同志社英学校・神學校規則○入退会

々員会友 ○同志社文学会々則

44

40 38 35

31 28 24

広告  
英学生徒募集  
会告

第三号

(明治20・6・11)

論説

文学雑誌ヲ評ス

風習興論ノ勢力

如何ニシテ神岡ヲ解ク可ヤ

今日ノ人民須ク体力ヲ養成ス可シ

松浦政泰

横田安止

廣津友吉

伊東溫

増田雅太郎

柏木義円

増田雅太郎

桐本浅之助

上田周太郎

岸本能武太

波多野培根

木村鎮太

岸本能武太

洛内外觀ルヘキモノ

「クリスチヤン・スチューデント」国ニ遊ブ

記事

○同志社演説会

○同志社英学校・神學校規則○入退会

々員会友 ○同志社文学会々則

48 47

広告  
英学生徒募集

第四号 (明治20・7・30)

論説

租税変動ノ四大期

児戯ノ笑流水ノ感

原人ノ状態ヲ論ス

變化論

基督ノ性格ヲ論ス

希望ノ価値ハ誠ニ大ナル哉

立志説

ト笙論

徳川家康論

社会上學術

雑録

〔長歌〕新年祝詞  
〔短歌〕五首

四首

〔漢詩〕

雷雨 又・送人之鎮西 秋夜聞蟲声

北豫	學人	高田寅二郎	安部 磯雄	鵬南生	49
津田次郎治		越智 豊治	若松兎三郎	半耕齋主人	48
志垣 要三		加藤 延年	白木 正蔵	長嘸生	48
岸本能武太		吉賀鶴次郎	鈴木 英男	梧樓吟客	48
46	46	45	44	49	48

冬夜読書  
鴨河曉望・觀殘菊有感  
詠史・淮陰侯  
偶成・題和氣公像  
謁月照兄弟墓・題同級諸写真  
自箴

送新島校長之泰西  
懷母・臨奉教記念会而有感

丙戌初春  
鵝里海漁夫

鵝里海漁夫

鵝里海漁夫

記事

○同志社第十二学年卒業式

○入退会々員会友

○英学生徒募集

○別課神学科生徒募集

記事  
○同志社第十二学年卒業式  
○入退会々員会友  
○英学生徒募集  
○別課神学科生徒募集

第五号 (明治20・9・30)

論説

上帝ノ摂理ハ巧ナルカナ (二)

時勢ト人傑

勝敗論

自由ノ価値

敵ハ却テ我ニアリ

花畠 健起	柏木 義円	上田周太郎	保高 正記	飛鴻堂主人	47
松尾音次郎					
18	15	1			
25	22				
25	22	18	15	48	47

『同志社文学』総目次

我國民の氣質と基督教の關係	寺坂市治郎	武内忠次郎
政黨ノ利害	大西 祝	32 28
雑録	佐々倉代七郎	40
四日漫遊ノ感	近藤又三郎	44
[新体詩] 親友馬場種太郎君が北海道へ之くを送る	佐々倉代七郎	40
文章論	岸本龍武太	48
神岡ノ至妙	廣津 友吉	46
社会ノ目的ヲ論ス	露無 文次	1
基督教徒ノソ真ノ傲慢家ナレ	中瀬古六郎	1
ノルス・マウント氏磁針ノ指示	奥村禎三郎	1
ギゾー氏ノ政教一軌論ヲ祖述ス	内田 政雄	1
婦女治内論ヲ草シテ我邦ノ女學生ニ問フ	伊東 温	1
語誤論	坂東 陸三	1
投書	36	32 28
未発ノ中ヲ論ズ	36	32 28
静修生〔演〕	48	42 42
正誤表	中元	45
論說	東州敬士	44
○同志社演説会弁士及ヒ演題	花畠健	42
○入会々員会友退会々員及役員	賜海 漁人	42
会告	〔漢詩〕遊干洛東南禪寺而謁横井先生之墓	42
記事	謁惺窓先生之墓々在洛北相国寺内	42
第六号 (明治20·10·31)	中元	42
岸本龍武太	48	42
廣津 友吉	46	42
露無 文次	1	42
中瀬古六郎	1	42
奥村禎三郎	1	42
内田 政雄	1	42
伊東 温	1	42
坂東 陸三	1	42
論說	東州敬士	45
アルフュース・ハーデー君紀念	花畠健	45
同志ノ目的—同志社書籍館開館式演説	賜海 漁人	45
読史漫録	〔演〕	45
歴史ハ何ソ吾人ヲ憤慨セシムルヤ	新島 裕	45
敢テ滿社青年ノ注意ヲ促ス	金森道倫(演)	45
男女同権論	足立 通衛	45
	波多野培根	45
	木村 鎮太	45
小山佐多次郎	52	40
25 21 18 13 10 1	46	40

## 求福拒禦ノ論

投書

## 人性ト教育

翻訳

## 脳ノ重量 (一)

## 〔新体詩〕 村里的鍛鉄場

デヨセス・ミムムス〔述〕  
白木 正蔵〔訳〕ロングフェロー〔作〕  
ホール・ムーン〔訳〕

## 雜錄

## 京都看病婦学校・同志社病院

## 同志社書籍館の開業開館式

## 同志社演説会

## 〔漢詩〕 詠庭前草木五首

紅梅・柳・竹・梧桐・松

上坂海上作・客中秋夜

神戸所見

〔短歌〕 七首

記事

会告

○会費払込

○郵便切手代用ノ節ノ払込

## 同志社文学会々則摘要

水上 龍介 27

第八号

(明治20·12·17)

## 論説

## 社会ニ係ワル諸学科ノ論理

## 靈魂不死ノ説 (一)

## 女子ハ其王国ヲ守ルベシ

## 文明世界ノ一大怪事

## バブチズマのヨハネ

## 和歌ノ巧用ヲ論ズ

## 暮秋之感

## 新日本青年ノ前途尚遠シ

## 当翁

## 〔短歌〕 二首

## 有神奇談

## 雜錄

## 〔漢詩〕 発浪華遊于南海

## 〔短歌〕 二首

## 〔漢詩〕 秋日経古戰場・竹

## 淵明愛菊図

## 〔新体詩〕 悲亡友

## 記事

## ○同志社學理講究会

## ○入会々員会友

保高 正記 30

論説

森田久万人〔演〕

山中百望月興三郎

鈴木左馬二郎

北里

辻長太郎

渡辺志貴麻呂

東州散士

塩井健太郎

造堂逸士

白木正蔵〔訳〕

デヨセス・ミムムス〔述〕

白木 正蔵〔訳〕

デヨセス・ミムムス〔述〕

白木 正蔵〔訳〕

白木 正蔵〔訳〕

白木 正蔵〔訳〕

白木 正蔵〔訳〕

白木 正蔵〔訳〕

白木 正蔵〔訳〕

30

7

## 『同志社文学』総目次

『同志社文学』総目次

第九号

(明治21・1・31)

論 説

新体詩を難す(一)

数学論

国家の三時代及社会の癡趣

万有ヲ見テ所感ヲ述フ

投 書

經濟と道德

翻 訳

フランクリン氏致富ノ秘訣

翻 訳

雜 錄 上  
新郎の幽靈

英米文學大家列伝略(一)

新体詩 レスキウド

セリア・サキスター(作)  
春陽 学人(訳)  
桜山 権夫(訳)  
一 咲 生(訳)  
松園 一

松園

〔漢詩〕新年述懷  
月下聴虫

述懷 二首

〔短歌〕グリーン教師送別会にて  
六首

津田 東州  
次郎 散士

35 35 35 35

フランクリン氏致富の秘訣  
(二)

フール・ムーン(訳)  
春陽 学人(訳)  
東海 漁史(訳)  
チヤンニング(著)

36 34 28

近藤又三郎  
木村 鎮太  
寺坂市郎治  
17 13 4 1

第十号

(明治21・2・28)

論 説

史學ト哲學ノ關係

靈魂不死説

社会ノ目的ヲ論ス

超越有機的醇化ノ一大傾向

戦爭論

愛國論

寄 書

宗教の起源を論ず

翻 訳

新郎の幽靈 中  
望洋 逸士

春陽 学人(訳)

湯 自 笑

松尾音一郎

優美の感

新郎の幽靈 中

フランクリン氏致富の秘訣  
(二)

フール・ムーン(著)  
春陽 学人(訳)  
東海 漁史(訳)  
チヤンニング(著)

25 21 18 14 9 7 1

浮田和民(演)  
山中 百  
露無 文次  
保高 正記  
高橋卯三郎  
深井 英五

37 36

○同志社の新年  
○新年集会  
○新年夜会

会 告

○新選役員  
○入会報告  
同志社文学々則摘要

記 事

雜 錄

『同志社文学』総目次

英米文学大家列伝略 (二)								
〔漢詩〕 読前後赤壁賦并引								
吊木戸公墓。高雄觀楓								
〔短歌〕 六首								
五首								
〔新体詩〕 山村の学窓								
燕歌行								
記事								
○学校祈祷会及基督教記念会 ○鞍馬山ノ鹿狩 ○學理講究会 ○民友社、無外書房ヨリ図書寄送 ○學理講究会第一年報 ○新島校長 ○前号ニツイテ会員会友諸君ニ謝ス ○本誌改良ニツイテ ○本紙代価郵送ニツイテ								
○入会報告 同志社文学会々則摘要								
第十一号 (明治21・3・27)								
論説								
青年論 (一)								
幸福論								
日本臨時理財考								
明治ノ青年須ラク自由ノ元氣ヲ養成スベシ								
花畠 健起								
坂田貞之助								
増田雅太郎								
津下紋太郎								
13 10 6 1								
樓賢余韻碑								
警軒 潛夫								
活堂 散士								
木山生								
磯貝由太郎								
十八山道人								
魏曹植〔作〕								
鳴水居士〔戲訳〕								
45 43 42 42 42 42 42 41 38								
翻訳								
文學ノ研究 (其必要并効用)								
死體								
ジョン・キルピン (一)								
組合教会ノ起源								
万國普通商業用語の発明 (ロンドン・ボブリック・オピニオン)								
英米文学大家列伝略 (三)								
〔新体詩〕 古城懷古								
薑菜ノ歌								
45 45 45 42 42 42 41 38 35								
警軒 潜夫								
安永 稔								
桜井 幹								
鈴木 咲								
南窓 外史								
25 22 18 18 18 17								
樓賢余韻碑								
警軒 潜夫								
安永 稔								
桜井 幹								
鈴木 咲								
南窓 外史								
25 22 18 18 17								
〔漢詩〕 新羅三郎足柄山吹笙図								
探梅。								
近藤作次郎								
46								

『同志社文学』総目次

送友人某赴任・偶感	吊友人某喪父	安永 稔	46
記事	○本校規則改正ノ為金森道倫氏東京ニ派遣 館ノ藏書數	○新成書籍	46
音響	○同志社演舌会	○學理講究会	29
会告	○清平の	○清平の	29
○花崗、露無、柏木三氏編輯ヲ補助	○神戸英和女学校	○神戸英和女学校	27
及び同志社女学校ノ本会委員	○入会報告	○入会報告	31
同志社文学会々則摘要			33
第十二号	(明治21·4·27)		
論説			
國民ノ幸福	津田 次郎	香峰 散人	34
戰爭進化論	古賀鶴二郎	玉 兎子	40
新体詩を難す	近藤又三郎	内田 桂宇	37
(一)	鈴木左馬次郎	近藤 鉄腸(訳)	43
学者と経済学	桐本浅之助	綿岳 櫟夫	45
地図ヲ見テ感アリ		〔漢詩〕侵雨到伏見而上桃岡觀梅	46
寄書		再到伏見而上桃岡觀花	46
療養漫録序		東山即事	46
井上円了君仏教新論第一編ヲ読ム		老将軍舞踏図	46
送堤士卿遊英國序		東州散史	46
		花崗 健	46
		南海 漁長	46
		海士が家の主人	46
記事			
○明治専門学校	○新島校長ノ談話	○嵐映ノ運動会	
○新島校長ノ東上	○教師新采	○書籍雑誌寄贈及交換	
会告			
○新撰役員	○入会報告		
○新撰役員	○入会報告		

同志社文学会々則摘要

第十三号 (明治21・5・30)

論 説

学海を照す基督教の光 (未完)

老子略評

基督の性徳

一年芳時将尽矣

火葬論 (未完)

青年社会ノ驚慌

井上円了君佛教新論第一編ヲ読ム (二)

新郎の幽霊 下

英米文学大家略伝 (四)

雜 錄

ロバート・ピール氏演説

エソップ物語抄訳

〔短歌〕十首

八首

〔長歌〕児嶋高徳・楠正成

〔漢詩〕落花

廣津友吉	木村鎮太郎	阿部政恒	鎌田亥四郎	木山巖太郎	辻長太郎	柏木義円
6 1	6	9	13	18	23	28
春陽	学人〔訳〕	タルヴィング〔作〕	春陽	学人〔訳〕	タルヴィング〔作〕	春陽
桜山樵夫〔訳〕	40	35	桜山樵夫〔訳〕	40	35	28
ロバート・ピール〔演〕	フル・マーン〔訳〕	ロバート・ピール〔演〕	ロバート・ピール〔演〕	ロバート・ピール〔演〕	ロバート・ピール〔演〕	ロバート・ピール〔演〕
44	44	44	44	44	44	44

記事	○同志社演説会	○寄宿舍増築	○入会報告
○同志社文学会々則摘要			
○會員募集広告			
○同志社文学会々則摘要			
○同志社英学校設立ノ始末			
第十四号	(明治21・6・30)	新島襄	1
論 説	浮田和民	新島襄	5
新經濟學	足立通衛〔演〕	新島襄	9
人類行為ノ法則ヲ論ス	草部一男	新島襄	15
支那ノ文明ヲ論ス	湯谷鑑一郎	新島襄	5
独逸初代之基督教	奥村禎次郎	新島襄	9
我國旧來ノ遺物ハ尽ク是ヲ地下ニ	深井英五	新島襄	1
葬ル可キ乎 (二)	浮田和民	新島襄	1
自由論	湯谷鑑一郎	新島襄	1
寄書	奥村禎次郎	新島襄	1
宗教心論	深井英五	新島襄	1
女子德義改良論	浮田和民	新島襄	1
新島襄宛書簡	奥村禎次郎	新島襄	1
英米文学大家列伝略	深井英五	新島襄	1
記事	浮田和民	新島襄	1

高田茂助	近藤作次郎	桜山樵夫〔訳〕	38 38	36 32	28 25	21 15	19
桜山樵夫〔訳〕							

『同志社文学』総目次

<p>○人会々員会友 同志社文学會々則摘要 明治専門學校設立旨趣 明治専門學校創立規則 論 説 青年論 (1) 借問同窓士 感情論 我國旧來ノ遺物ハ尽ク是子地下ニ 葬ル可キ乎 (2) 儒教小論 功名心棄ツ可キヤ 寄 書 近藤君ノ訳詩ヲ読ム 雑 錄 〔長歌〕久しく朝な夕は共に もの学ひせし思ふ友の 親睦のつどゐて読る         </p>	<p>第十五号 (明治21・7・4)</p>	<p>新島 裕 山本 覚馬 明治専門學校 創立事務本部 6 1 40</p>
<p>花畠 健起 村田 勤 平子 貞誠 奥村禎次郎 若松兎三郎 桑田 常造 36 34 30 24 18 15 7 12</p>	<p>本校記事 ○井上伯の来校 ○新島校長の帰校 ○金森通倫氏の帰校 論 説 女權論 人事ノ美妙ハ復雜變遷ノ時ニアリ 笑ノ種類 同志社學院各級生徒調査概表 (明治二十一年第十月調) 世ニ惡魔ノ存ンスル所以 林 長知 19 17 13 8 2 12</p>	<p>桜井 幹 留岡 幸吉 中瀬吉六郎 42 41</p>
<p>佐久間象山先生の訓戒 リコルゴスの話 ペルペッタの話 支邦奇談 〔新体詩〕道芝の靈 雑 錄 K・フラッアフルード 樵耕 山人 23 23 22 22 21 23</p>	<p>海士か屋の主人 津田 次郎 広 告 (浅瀬の波) 同志社文学會々則摘要 〔短歌〕十四首 海士か屋の主人 津田 次郎 42 41</p>	

『同志社文学』総目次

		論 説	
〔漢詩〕自再入京都已三年往事 ○送友人之支那		悠然多不堪感概者	
○叡山懷古・望叡山		東州 散史	
〔短歌〕十六首		坂本 義夫	
翻訳		津田 次郎	
英米文学大家列伝略 (七)		木賀山史(訳) (桜山樵夫)	
○説教の性質を論して同窓の基督 信徒たる青年に質す		27	
○青年論 (三)		花畠 健起	
○本会記事		花畠 健起	
○改撰役員 ○第十六号ヨリノ編輯事務 君ニ本紙投稿依頼 ○新入会員及会友		41	
○同志社文学会々則摘要		37 32	
第十七号 (明治21・12・10)		〔漢詩〕登岳・宿石窟・発函根・鶴岡 雲散霧消洩れ出る月 (一)	
〔格言〕		木賀山史(訳) (桜山樵夫)	
○本校記事		雲海遊温泉寺々藤原藤房公所 開創庭有公手植松	
○同志社演説会 ○某氏校長を訪ぶ ○ボルトル氏		櫻耕 山人	
○校長同志社大学設立の事を生徒に計る ○校内の義捐		坂本 義夫	
1		片山猪之吉	
		〔短歌〕九首	
		客中秋感	
		〔短歌〕十首	
		琴浦 鈎徒	
		海士か屋の主人	
		雲峰 逸史	
		鈴木太馬次郎	
		K . S .	
		レ・コント(著)	
		K . g . 生(訳)	
活人新論一二三、四号を読む		レ・コント氏進化論ト唯物説ノ関係	
脳力の二個の習慣		ユース・フォン・ライビッフ氏	
衛歎論		寄書	
同志社之現象		翻訳	
○本会記事		活人新論一二三、四号を読む	
黄薇 山人		脳力の二個の習慣	
46 45 39 33		衛歎論	
32 25		同志社之現象	
25 24 24 24 23		○本会記事	
20 17 12 6		黄薇 山人	
德富猪一郎(演) 坂田貞之助 片山猪之吉		櫻耕 山人	
12 11 10 9		坂本 義夫	
6 5 4 3		海士か屋の主人	
5 4 3 2		雲峰 逸史	
4 3 2 1		鈴木太馬次郎	
3 2 1		K . S .	
2 1		レ・コント(著)	
1		K . g . 生(訳)	

『同志社文学』総目次

○新入会員会友	K · g · [訳]
同志社文学会々則摘要	南風子[訳]
<b>第十八号</b>	(明治21·12·25)
〔格言〕	カール・フレドリック・ガウース氏略伝
本校記事	ジョン・チンドル氏
○新島校長神戸に赴かる	模華道人
○或る米人の寄附	奥田諫山
○岩崎弥	警軒
之助の来校	徳王作蔵
○久方宮内大臣の来校	藤蒼道人
○ポルトル氏ノ談	島山一郎
話	文海漁夫
○スリヤベルーツ大學行返翰	柳江釣士
社告	雲峰逸史
会員会友諸君に質す (一)	望洋庵主人
論説	51
グランド氏の説教	K · S · 1
基督教徒間の藩閥政治	〔漢詩〕客中除夜
社会改良の新案	〔新体詩〕歳暮の感
反動及ビ弾力性ノ論	〔短歌〕三首
東肥学人	沙美浦曉々錄
志垣要三	〔漢詩〕客中除夜
保高正記	〔新体詩〕歳暮の感
松涛学人	〔短歌〕三首
31 28	22 16 12 4 1
特別寄書	〔漢詩〕客中除夜
同志社生徒の体格試験表に付て	〔新体詩〕歳暮の感
生活社会ノ理想	〔短歌〕三首
翻訳	〔漢詩〕客中除夜
金言	〔新体詩〕歳暮の感
本校記事	〔短歌〕三首
○新年祝会	〔漢詩〕客中除夜
○新年夜会	〔新体詩〕歳暮の感
○本会記事前号の正誤	〔短歌〕三首
ベレーリ	〔漢詩〕客中除夜
安部磯雄	〔新体詩〕歳暮の感
50	49 49 49 49 49 49 48 48 48 42
第十九号	(明治22·1·30)
本会記事	〔短歌〕三首
○新入会員	〔漢詩〕客中除夜
○会員会友諸君に告ぐ	〔新体詩〕歳暮の感
同志社文学会々則摘要	〔短歌〕三首
望洋庵主人	〔漢詩〕客中除夜
柳江釣士	〔新体詩〕歳暮の感
雲峰逸史	〔短歌〕三首
50	49 49 49 49 49 49 48 48 48 42
41 35	41 35

『同志社文学』総目次

○新島先生宛の書簡（本城安太）		1	送傍十葉之米国		琴浦漁長
社告			冬夜読書・觀雪・己丑新年		
文学雑誌会員会友諸君に告ぐ 其一		T · B ·	寄友人某在米國桑港	坂本義夫	45
論説			〔長歌〕明治二十二年一月一日の夜		
エホバ家を建玉ふにあらざれば建る ものゝ勤労は空しきのみ			異國の文の林の思ふ友と むつびのつどひを開きける		
（詩篇百二十七の一）			ときよめる		
邦國進歩ノ時期		S · T · 生〔訳〕	白雲の屋の主人	津田次郎	45
片山君ノ質疑二答フ		回比居士	〔短歌〕八首	津田次郎	47
吾人ノ覺悟		林長知	十一首	湯谷磋一郎	47
特別寄書		笠部熊次郎	郁の山人	47	
聖書ト大学科目		ゴルドン〔演〕	山本靜也		
翻訳		サン・ピエール〔作〕			
有為転変（一）		薇倉道人〔戯訳〕			
雑録		30			
隨感漫録		34			
答人論宋學書					
賀宮城落成序					
〔漢詩〕送知友序					
歲晚書懷					
T · B ·					
43 42 41 39					
奥田 謙山					
奥田 謙山					
波多野培根					
第二十号（明治22 · 2 · 15）					
宗教と道德及邦家トノ関係・〔格言〕					
本校記事					
○ウヰシヤルド氏とスヰフト氏					
○基督教大演説会					
52		48			
15					

『同志社文学』総目次

○同志社生徒と基督教	○同志社憲法発布祝会	○校長
よりの書翰		
社告		
年賀の祝詞		
基督教証拠論概略		
我邦の元氣恢復論		
洋学者に望む所あり		
明治二十二年ノ同志社ヲ想像ス		
K・G・生	4	1
松尾音次郎〔演〕		
S・S・		
六無散人		
鈴木左馬二郎		
原沢富重	26	23
雲峰生	29	
K・S・生	32	
天大長者	35	
東州散史	35	
駿岳樵夫	36	
楓江逸民	36	
近藤作次郎	36	
詩寄懷旧友之在英國		
近藤作次郎	36	
憲法發布		
恭賀憲法發布之盛典		
小星（英詩翻訳）		
祝憲法發布		
〔短歌〕三首	37	36
四首	36	36
雜錄		
葛倉道人ニ一言ス		
基督教大演説会概評		
〔漢詩〕賀憲法發布		
憲法發布		
雲峰生		
本誌の性質		
文學會雑誌		
殖民論		
論說		
日本人民の将来を論じ併せて		
我が國の有力者に望む		
仏國ノ形勢ニ就テ感アリ		
明治青年の鴻事業		
英雄論		
敢テ問フ同窓ノ諸君		
名著寄書		
有為転変（二）		
サシ・ピエール〔作〕		
葛倉道人〔戯訳〕		
警軒		
旭操		
潛夫		
居士		
第二十一号		
(明治22·4·30)		
53	47	46
19 15 11 10 5	1	

サン・ピエール〔作〕  
葛倉道人〔戯訳〕

サシ・ピエール〔作〕  
葛倉道人〔戯訳〕

37

『同志社文学』総目次

<p>専門学者ト諸種ノ学生 (二)</p> <p>雜報</p> <p>讀書論 (一)</p> <p>神港雜感 (一)</p> <p>雲峰生君に御返事申す</p> <p>〔漢詩〕感懷・送友人某之東京・熊山懷古・</p> <p>大内觀松・閑谷譽</p> <p>〔短歌〕三首</p> <p>〔長歌〕憲法の發布を祝ひ奉りて</p> <p>新体詩</p> <p>本校記事</p> <p>○小崎海老谷西氏 ○喜ぶべき日 ○夏期學校 ○東京 靈南坂教会青年諸氏より院長への書簡 ○亡武光正成氏 之履歷</p> <p>○役員改選 ○本誌先月休刊を謝す ○本会へ寄送せら れし雑誌</p> <p>同志社文學会々則摘要</p> <p>第二十一号 (明治22・5・30)</p> <p>本誌の性質</p>	<p>S · T · 生 [訳] 28</p> <p>美軒 小史 31 28</p> <p>被倉 道人 33 31</p> <p>坂本 義夫 35 35</p> <p>池袋 清風 35 35</p> <p>津田 久之 35</p> <p>日本人的将来を論じて併せて 我が有力者に望む (一)</p> <p>真正ノ青年</p> <p>格言</p> <p>アダム・スミス氏の二大著書に付て 文法上の厄介なるのみ</p> <p>朝鮮通報</p> <p>睡眠及夢ニ於ケル統計上ノ研究</p> <p>札記と哥林多前書</p> <p>神港雜感 (一)</p> <p>投書</p> <p>印度人ダンマバラ氏</p> <p>文學會雑誌に対する感情</p>	<p>原性</p> <p>文學會雜誌</p> <p>論說</p> <p>基督教証拠論 (二)</p> <p>坤輿一統論</p> <p>英雄論 (一)</p> <p>発明の時代</p> <p>日本人の将来を論じて併せて 我が有力者に望む (一)</p> <p>真正ノ青年</p> <p>岸本 勇吉 22 17</p> <p>桐本 浅 14 12</p> <p>井口 潮 9 4</p> <p>南海 漁夫</p> <p>聽雲 小史</p> <p>深水 玄生</p> <p>井口 潮</p> <p>1</p>
<p>天大長者</p> <p>十八山道人</p> <p>美軒 小史 28 25 25 24 24 24</p> <p>浮田 和民</p> <p>34 30 - 29 28 25 25 24 24 24</p>	<p>17</p>	<p>1</p>

『同志社文学』総目次

<p>最後の接吻</p> <p>詞藻</p> <p>〔漢詩〕偶感・応理山桜</p> <p>辯家・錦山晚望・題豊公取履図・書懷人心</p> <p>(英詩訳)</p> <p>〔短歌〕七首</p> <p>郁の山人 湯谷礎一郎</p>	<p>スミス女史〔作〕</p> <p>樵耕 山人〔訳〕</p> <p>東州 散士</p> <p>隈城 學人</p> <p>38</p>	<p>35</p>	
<p>本院記事</p> <p>○春期運動会 ○米国全權公使等の来院 ○夏期学校再報</p> <p>○本学院学生の義捐金 ○ハリス氏の厚意 ○同志</p> <p>社演説会 ○ハリス氏厚意余聞</p>	<p>39</p>	<p>38</p>	
<p>本院報告</p> <p>○本誌の将来 ○前号の本誌 ○同志社学院外の会員会</p> <p>友諸君に告ぐ ○寄送雑誌 ○入会各員及会友</p>	<p>42</p>	<p>44</p>	
<p>広告</p> <p>学生聖書研究夏季学校</p>			
<p>第二十三号 (明治22·6·17)</p>			
<p>詞藻</p> <p>〔漢詩〕題義家過勿來閨図</p> <p>垂絲桜</p> <p>春曉・惜春</p> <p>張良・失題</p> <p>咏竹・咏松</p> <p>初春泛琵琶湖・述感</p>	<p>「短歌」王陽明四言教の歌</p> <p>白樂天と聖書</p> <p>古今東西道義字者要語</p> <p>生物の進化に就て</p> <p>夏期ノ漫遊</p> <p>愛する小女</p>	<p>論説</p> <p>社会学研究ノ必要ヲ論ズ</p> <p>乱臣賊士</p> <p>寄生論</p> <p>誰力文字ヲ無用視スルヤ</p> <p>吾儕ノ師父吾儕ノ朋友</p> <p>同窓諸子ニ一言ヲ呈ス</p>	<p>3</p>
<p>1</p>	<p>12</p>	<p>8</p>	
<p>坂本義夫</p> <p>坂本俊夫</p> <p>杉江渡辺恵堂</p> <p>坂本義夫</p> <p>坂本俊夫</p> <p>杉江渡辺恵堂</p> <p>坂本義夫</p> <p>坂本俊夫</p> <p>小野諦深</p> <p>福井大三郎</p> <p>中島五郎</p> <p>S · K ·</p>	<p>保高正記</p> <p>三十六峯生</p> <p>岳山生</p> <p>栗山丈造</p> <p>笛部熊次郎</p> <p>浮田和民</p> <p>26</p>	<p>26</p>	
<p>32</p>	<p>32</p>	<p>29</p>	
<p>32</p>	<p>32</p>	<p>29</p>	
<p>32</p>	<p>32</p>	<p>27</p>	
<p>32</p>	<p>32</p>	<p>26</p>	
<p>32</p>	<p>32</p>	<p>22</p>	
<p>32</p>	<p>32</p>	<p>19</p>	
<p>32</p>	<p>32</p>	<p>15</p>	
<p>32</p>	<p>32</p>	<p>12</p>	
<p>32</p>	<p>32</p>	<p>8</p>	
<p>32</p>	<p>32</p>	<p>3</p>	

『同志社文学』総目次

吉田山上懇親会、帰来感長古一編・記所見且 寄稿	詞藻				
○聖書之友大会 ○シリヤ・ペルート大学よりの通信	ロンドン府の日曜日	アービング〔作〕			
○ハリス氏 ○同志社演説会	〔新体詩〕日曜日	素軒逸史〔訳〕			
本院記事	故山の遠望	ジョルジ・ハルバート〔作〕			
○寄送雑誌 ○入会各員	〔漢詩〕偶成	素軒逸史〔訳〕			
広告	首夏遊山寺	蝸堂野史			
○同志社演説会	八幡公過勿來閔罔				
本院報告	顛落散人				
○同志社三校の規則 ○卒業式(一)同志 社女学校第十二年卒業式 ○京都看病婦学校第二年卒業 式 ○卒業式(二)一本学院第十四回卒業式 ○同志社アル ムニ会 ○夏期学校 ○七月十五日の同志社	36	34	33	33	
第二十四号 (明治22・7・31)					
本誌の性質	本院記事				
文学会雑誌	○校長委託式 ○同志社三校の規則 ○卒業式(一)同志 社女学校第十二年卒業式 ○京都看病婦学校第二年卒業 式 ○卒業式(二)一本学院第十四回卒業式 ○同志社アル ムニ会 ○夏期学校 ○七月十五日の同志社				
日本学術の教育	○同志社豈に斯る怪事あらんや				
論説	○同志社豈に斯る怪事あらんや				
夏期学校三対スル感情					
基督教青年ノ覚悟					
基督教ト日本青年					
熊本花岡山上ノ献身					
18 12 8 6	1				
山崎為徳〔英述〕					
柏木 義田〔訳〕					
新島 襄〔演〕					
小崎弘道〔演〕					
浮田和民〔演〕					
金森通倫〔談〕					
夏季学校評論	露無文治				
卒業生諸士ヲ送り併セテ本校諸士ノ					
愛顧ヲ乞フ					
青年ノ希望及ビ信仰					
本院報告					
○来月休刊の予告 ○寄送雑誌 ○本誌第二十二号及び 第二十三号の表題について表題印刷の誤謬					
42 40 38 36	25 25 25 25	24 23 22			

『同志社文学』総目次

広 告

同志社普通学校生徒募集  
正誤表

第一十五号

(明治22・9・30)

本誌の性質

教育宗教及び商工業の独立  
論 説

同盟罷工論 (未完)

学校の価値

馬耳東風ニ付ス可キハ世評ナル乎  
既往の日本に需要多かりし人物は

諸大家聖書論 (未完)

死ヲ論ズ

寄 書

漸進と急進  
懲 論 (一)

本校記事

○アーモスト大学総長に学位を贈る ○市原、森田、村  
井、南諸氏の洋行 ○沢山及び三好君 ○文学士大西祝  
君 ○新任教師 ○紳士来観 ○本年の入学生 ○下村  
教授の帰朝 ○九月十五日の同志社 ○水災救恤義捐金  
の募集

雜 錄

友の米国に遊ぶを送る (旧作)

柏木 義円  
甲 峯生

薔雪余稿

撫花 小史

中秋望夜の感

〔漢詩〕己丑夏趨東京之途次・偶成・周洋遠望

柏木 義円  
甲 峯生  
東州 散士

消夏漫吟二首・石山觀月・過断頭場・哭亡友

半 耕 生

〔長歌〕ガンベツタ風船に乗る図

鐵道の図を見て

津田 久之

〔短歌〕四 首

半 耕 生

〔新体詩〕夕の讃美歌

津田 久之

かなめ(意訳)

石塚麗州生

〔短歌〕二 首

か な め

本会報告

会告一本誌第一十四号配布方行違を謝す  
入会

32	29	27	24	21	20	17	12	6	1	44	43
----	----	----	----	----	----	----	----	---	---	----	----

B  
·  
T  
·

吾堂小史〔訳〕  
井口 潮  
桧垣 寅吉  
石塚 正治  
タウンセンド〔編輯〕  
Y · A · 生〔訳〕

北渢  
処士

40	40	40	39	39	38	36	34
----	----	----	----	----	----	----	----

『同志社文学』総目次

第一十六号

(明治22・10・31)

本誌の性質

文学会雑誌

徳富氏の演説

論説

仏教徒ト基督教徒

東洋古代又タ民権論アリ

明治青年之境遇及其責任

歴史地理及ヒ数学

翻訳

結婚場裏之死鐘

ロボルト・エムメット臨終の弁護

本校記事

○図書館棧上の夜会 ○下村教授歓迎会 ○ウキッシャ

ルド氏復た来る ○藤田教授の永眠 ○総長の東上

○徳富君の演説 ○本年卒業生の近状 ○水害救恤義捐金

雜感 雜錄 學餘隨筆

柏木 義円  
笛部熊次郎

34 32

某君の死を聞て	岡山孤児教育院の恩賜	陽海漁人
〔漢詩〕嵐山大悲閣上望鄉一首	遊鞍馬山所感一首	筑洋生
将東遊留別竹莊詞兄并引	江樓秋夜 秋江晚景	坂本義夫
失題(西詩翻訳)	〔短歌〕下村先生の米国より帰られたるを 喜びて 五首	瞰江
花田岩五郎	天舟漁夫	花畠 健
黒川龜之助	中島五郎	坂本義夫
18 15	12 7	39
入会及退会各員	本会記事	筑洋生
ホーソーン[作] かなめ生[訳]	素軒逸史[訳]	坂本義夫
20	27	39
第三十七号	(明治22・11・30)	
本誌の性質	本誌の性質	
吾が友愛なる同志社学校の諸兄姉に望む(未完)		
論説		
極端進化論者の惑を解く		
世の博母慈善家に望む		
吾人青年にして政治思想を養成するの必要を論ず		
上田周太郎	坂山生	36
10	7 3	38

『同志社文学』総目次

	第二十八号		(明治22・12・21)	
天国の理想			林長知	
新日本之青年			服部礼吉	
青年ノ心事ヲ論ス			踏海逸士	
其場所を撰ぶ可し			咄々庵主人	
夢			石賀熊藏	
社会ニ対スル吾人ノ感情			鈴木重嶽	
詞藻				
千秋の弁				
学餘隨筆				
雜感(一)				
〔漢詩〕病馬行				
〔新体詩〕ゲインス教授の帰国送別会にて				
〔短歌〕ゲーンス師のアメリカに帰られる				
別れに 五首				
〔新体詩〕十一月				
学生の幸福				
本校記事				
○ゲーンス教師 ○理化学室 ○速水琢磨氏 ○下村教 師 ○同志社逸事 ○同志社の時論 ○同志社の食事 ○第十一回同志社同窓会記事				
40	37	36	35	35
千秋生	西海武生	扇城逸生	白雲居士	天山一郎
聽雲生	天の小ぶね	天の小ぶね	まこと	まこと
27	33	32	31	29
林長知	林長知	林長知	林長知	林長知
服部礼吉	踏海逸士	咄々庵主人	石賀熊藏	鈴木重嶽
22	21	16	14	12
25	25	22	21	21
22	22	21	16	14
21	21	16	14	12
○本誌発行期日 ○地方会友諸君ニ告ク ○本校卒業生 諸子の現状掲載について ○当期改撰役員及各級委員				
同志社文学会々則摘要				
文学会雑誌				
國粹及び國家主義(未完)				
論説				
立憲君主政体論(一)				
自任論				
亞弗利加(一)				
京都の地と女子教育(一)				
明治二十二年ヲ回顧シ方向ヲ				
一転セン事ヲ望ム				
詞藻				
年暮所感				
二十一年猛士吉田松陰先生の漫言				
讀亡友錄				
媒ぶりたる文の写なる由にて友より贈られたるものなり				
会告 ○地方会友諸君ヨリノ請求 会費郵送ノ件				
本会報告				
40	37	36	35	35
向陽學人	天野義江	鈴木左馬次郎	伊方亭主人	伊方亭主人
6	9	11	11	11
1	1	1	1	1

## 『同志社文学』総目次

文庫の掃除	石賀 熊蔵	伊方亭の主人	26 25
〔漢詩〕述懐・晚秋遊上加茂	新玉の年	田出鯛居士〔訳〕	
客中冬夜	増田宋太郎氏之逸事	笛部熊次郎	
一助	無形の戦争(軍歌)	白雲 居士〔作〕	
本校記事	雨ふる日	翠江 江子〔訳〕	
○同志社教会 ○田村教授 ○同志社の運動 ○体育の	如何ニシテ神ノ命ヲ全フス可キ力	岳山生	
深井 英五	禿筆漫録	蝸堂 野史	
第二十九号 (明治23・1・25)	慷慨歌	蕭溪 散士〔謾吟〕	
尚ほ基督教を国敵視するとは	投書		
基 論 説	ウキリヤム・ケレー氏の略伝	上田周太郎〔訳〕	
基督教証拠論の区域と其性質 (完)	神の攝理の方法 (丁)	深井 英五	
連トテ叱スル勿レ	廢娼説ヲ主張シテ府下青年ニ望ムアリ (丁)	黒川生	
法 学 通 論	本院記事	蕭溪 散士〔謾吟〕	
滿洲基督教伝道者に乞ふ	○元旦式 ○新年会 ○新年会の誕生 ○潛龍館 ○總	翠江 江子〔訳〕	
國会と内閣との関係を論ず	長校長教授	白雲 居士〔作〕	
鈴木 英男	上田周太郎〔訳〕		
石賀 熊蔵	深井 英五		
鹿州 山人	黒川生		
本会報告	蕭溪 散士〔謾吟〕		
○本会に關する役員の改選 ○爾後の西洋新聞及雑誌の	翠江 江子〔訳〕		
扱方 ○新入会員 ○同志社卒業生の姓名及住所、近況	白雲 居士〔作〕		
掲載予告 ○地方会友諸君に告ぐ ○入会々友	蕭溪 散士〔謾吟〕		

『同志社文学』総目次

第三十号 (明治23・2・25)

文学会雑誌

基督教の愛  
ゴルドン将軍

論 説

普通教育以上ヲ治メタル者ハ暫ク下等  
労働社会ニ入ル可キ乎

敢て音楽を蔑視する青年輩に問ふ

詞 藻

〔漢詩〕故新島先生之詩三首

題仙人図・車上感

敢テ同窓学生諸君ニ一言ス

本院記事

○故新島先生を追憶す ○先生と板垣伯 ○先生の逸事

○先生の経緯言 ○先生の遺言の一 ○同志社の難問題

○奉教紀念会

投 書

法学通論 (二)

垂弗利加 (二)

空々又漠々 (末)

鈴木 英男  
鈴木 左馬次郎  
深 水 生

29 25 20

アルブレヒト〔著〕  
K・K・生〔訳〕

植松 又治  
三谷寅之助

岩永 猿一  
警軒

18 17 16 16

文学会雑誌  
〔タイトル無〕

〔汉詩〕故新島先生詩  
〔短歌〕故新島先生詩

〔汉詩〕故新島先生歌  
〔汉詩〕追憶故新島先生

〔汉詩〕故新島先生  
〔汉詩〕故新島先生

堺娼説ヲ主張シテ府下青年ニ望ムアリ (二) 黒川生

本会報告

○新入会員会友 ○新島先生の逝去に際して品状に厚謝す ○本会寄送雑誌

第三十一号 (明治23・3・25)

文学会雑誌  
〔タイトル無〕

〔汉詩〕故新島先生詩  
〔短歌〕故新島先生詩

〔汉詩〕故新島先生歌  
〔汉詩〕故新島先生

〔汉詩〕故新島先生  
〔汉詩〕故新島先生

38 36

1

5

13

18

26

22

27

27

28

28

28

28

28

28

28

『同志社文学』総目次

懲・故餘情 「新体詩」新島先生の墓 眇筆漫録 本院記事 ○下村校長 ○松山高吉君 ○二月二十一日盛銳の元気 を鼓舞して ○野猪の盛会 ○義侠の美挙 ○尚武の魂胆 投書 祭新島先生文 新島先生ヲ吊フノ文 本会報告 ○東京番町教会にて故新島先生の追悼会 ○北海道札幌 にて故新島先生の追悼会 ○入会及退会々員 ○仲田誠 太郎君	鹿州 撫花 蝶堂 野史 山人 34 32 30 28 上毛の初陣を読む 信仰ト行状(一) 詞藻 「漢詩」「短歌」故新島先生之詩歌 先生の談話中の人物 親子の情(一) ワシントン・アービング「作」 権耕山人〔訳〕 「長歌」青年の夢 「短歌」九首 捨小舟 [短歌]六首 「新体詩」春の鳥(英詩訳) 本院記事 ○紀念神学部 ○故新島先生紀念会 ○横井・徳富西氏 の演説 ○同志社々員会議 ○謹迎龍鳴 投書 法学通論(四) 本会報告 ○入会々友 ○退会員 ○地方会之諸君に告ぐ ○上毛 鈴木英男 撫花小史〔訳〕 拳石 白雲 居士 居士 山人 33 31 30 30 30 東州 学人 平瀬 龍吉 24 22 上毛 撫花 小史 蝶堂 野史 山人 40 37 35 19 15 1 12 文学会雑誌 同志社の発起者設立者及び創立者 徳富君演説ノ大意 論説 個人主義と國家主義 救貧策 浮田 和民〔演〕 上田周太郎 佐治熊五郎
<b>第三十二号 (明治23・4・25)</b>	
40 34	
34 33 33 31 30 30 26 26 26 26 26 26	

『同志社文学』総目次

第三十三号 (明治23・5・25)

本校記事

- 患者比較表 ○自治制 ○四月三十日、新校長小崎弘道君着京 ○五月三日、新校長歓迎会

文学会雑誌

我国沿革上の三大事変を論して  
現今の形勢に及ぶ (一)

波沢栄一氏演説の大要

花畠 健起  
U・I・生

第三十四号 (明治23・7・25)

1 本会報告

- 入会員及退会者 ○古賀鶴次郎氏  
諸君に告ぐ ○第十二回同志社同窓会

〔漢詩〕書感 同窓前讀書感  
庚寅歲旦賦一詩 此日遇雨  
ワシントン・アービング〔作〕 柴煎 繁子  
樵耕 山人〔訳〕

文学会雑誌

英雄の商売替

論 説

法学通論 (内)

榮枯盛衰其道一なり

詞 藻

病闇漫録

〔新体詩〕月・董・月

親子の情 (三)

一休和尚

〔漢詩〕漫題 戯答人促揮毫

偶成

学窓の処女

白雲 居士

36 34

警軒 潜夫

22

靈魂ニ就イテ (一)  
素軒逸史 る一てる序  
村田勤著 「デビス教師ノ説教學稿」  
〔新体詩〕小崎校長の歓迎会を開きける時

投 書

旭操 居士

32 31

黒 川 子  
なでしこ小史  
ワシントン・アービング〔作〕

19 17

中嶋 五郎

25

鈴木 英男  
栗山 文造

10 8

渡辺栄太郎

19

鈴木 英男

1 11

上田周太郎

14

鈴木 英男

36

丹羽清次郎〔訳〕

32

樵耕 山人〔訳〕

16 14

美軒 小史

31

春 夢 生

10 8

白雲 居士

28

黒 川 子  
なでしこ小史  
ワシントン・アービング〔作〕

1 1

40 37 36

『同志社文学』総目次

翻訳

サミエル・クローサー氏の略伝 (二)

上田周太郎〔訳〕

操觚者流の現象を見て感あり  
信仰ト行状 (二)

伝記

狂訓亭春水略伝

魚列 逸士

吾人ノ暑中休暇ハ未タ嘗テ精神ヲ  
休養シ肉身ヲ磨練回復スルノ  
一大好機タラズンハアラス

投書

靈魂ニ就テ (二)

旭操 居士

夏やすみ (一)  
禿筆漫談 (三)

H. K. 生

11

寂峯生

12

坂本義夫  
平瀬龍吉

東京行

松浦政泰

鴨堤の逍遙

蝸堂野史

15

同志社は尚同志社たらんことを望む

黙軒 学人

〔短歌〕秦山子廻舍女第三社中  
同志社女学校

無名子

7

本院記事

○自治制

〔新体詩〕磯まわご (一)  
〔漢詩〕思郷・秋宵歩月

寂峯生

18

○中嶋氏来校 ○「インフレリューエンザ」来校

○自治制

三輪 長野 久子 永子

H. K. 生

11

○学年末大運動会 ○第十五回卒業式

○前号

一首

三輪 長野 久子 永子

18

○本誌六月分休刊 ○地方会友会員諸君に告ぐ  
の正誤

○前号

二首

三輪 長野 久子 永子

19

第三十五号

(明治23・9・30)

36

35 32 30 28

23

精神的の教育  
文学会雑誌  
入生徒之人数 ○本校教員山路一三氏ノ遊学  
○自治制 (二) ○生徒自治規約 ○新迎教員 ○新

三首  
一首  
一首

〔新体詩〕磯まわご (一)  
〔漢詩〕思郷・秋宵歩月

小崎 弘道 1

翻訳

浜崎 笠置 加藤 高松 康子 新子 久子 康子 新子 久子 永子

20 20 19 19 19 19 19 19 19 19 18 18

『同志社文学』総目次

詞藻 同志社の使命 哲学研究の準備 科学及科学家 不可思議なる一現象 社会改良案 同志社神学校 (一)	文学会雑誌 論説 文明 バックレー〔著〕 S・S・〔訳〕 南風子〔訳〕 児玉亮太郎 大石七郎 上田周太郎 15 13 10 7 3	第三十六号 (明治23·10·31)	村田 勤 1	雜録 米国南北戦争記 (一) 学生の宝劍 在米國森田久万人氏よりの來状 衆議院議員祝会の景況 本校記事	自育 (一) 翻訳 デビス〔演〕 閻崇山人〔訳〕 歷地生	39 37 35 34 31 28	漫録 断腸の記 夏やすみ (一) 「新体詩」 「短歌」十二首 「漢詩」初秋・秋風・薄 客亭・一首・浦島子 秋庭散歩・秋曉記感 蘭	岳山生 鹿州山人 H·K·生 しら雲〔意訳〕 磯まさご (一) 嘘月 散志 浜崎 溪雲 雜窓 学人	21 24 29 24 21 20 17
							チャンラング〔著〕 山人〔訳〕 下村孝太郎 鈴木英男 初秋・秋風・薄 客亭・一首・浦島子 秋庭散歩・秋曉記感 蘭		
							チャンラング〔著〕 山人〔訳〕 下村孝太郎 鈴木英男 初秋・秋風・薄 客亭・一首・浦島子 秋庭散歩・秋曉記感 蘭		
							チャンラング〔著〕 山人〔訳〕 下村孝太郎 鈴木英男 初秋・秋風・薄 客亭・一首・浦島子 秋庭散歩・秋曉記感 蘭		

本会報告

○地方会友諸君に告ぐ二件 ○委員及役員の改選 ○会員

員諸君に告ぐ ○新入及転入会員、新入会友、退会員

鶴楓(高尾・梅尾)

鶴端艇競争於瀬田川

丹波篠村途上

〔短歌〕六首

馬散史

嘯月

笠齋

學人

第三十七号 (明治23・11・30)

文学会雑誌

近時宗教上の形勢に就て

論 説

「ユニテリアン」派の批評 (一)

同志社神学校 (二)

立憲論

同志社学生ノ事業

詞 藻

擊劍不可廢論

留別辭

〔漢詩〕初夏江村一・秋夜宿漁家

冬晚二首・雪釣・劍

坂田中村湯浅三氏を初の帝国議会に送る

第一寮棟上賞月・賀某翁古稀

觀人面石

謝土屋鳳洲翁・謝谷如意翁

高口 三行  
基 26 25

坂本 義夫

柏木 義円  
1

自 育 (三)

翻 訳

チャラング〔著〕

教授ハックスレー氏と

教授ドーソン氏

第二十九世紀の為のポンペイ

フレデリックハリソン〔著〕

S・S・生

門田 新六

上田周太郎

坂口 栄

黙雷

山本唯三郎

静軒

中嶋 生

門田 新六

22

24

24

20

16

14

8

1

翁 岸州

徳王 作藏

たつ 馬

嘯月 散史

笠齋 學人

27 27 26

29

38

36

32

38

36

32

29

26

26

26

26

26

26

26

26

26

○地方会友諸君に告ぐ二件 ○本会の期望

○新入及転入会員、新入会友

『同志社文学』総目次

第三十八号	(明治23·12·31)		
文学会雑誌			
真理之愛			
志を決するの方如何			
論 説			
「ユニテリアン」説の批評 (一)			
中西牛郎氏経世博議を読む			
詞 藻			
〔漢詩〕 雨後即事・秋雨夜坐			
秋夜偶成			
高尾觀楓 (二首)			
〔長歌〕 帝国議会の開設をことばぐ			
四 首			
雜 錄			
ドーソン氏の答弁 (一)			
米國南北戦争記 (二)			
本校記事			
○帝国議会開会の祝会			
海老名禪正氏、柏木義田氏、小野英次郎氏			
談会第二回 ○神学生講談会第三回			
第三十九号	(明治24·1·31)		
文学会雑誌			
本誌の改進			
新島先生就眠一週の紀念会			
論 説			
エドウキン・アルノルド氏演説			
約翰伝の真書なるを論ず (一)			
エドウキン・アルノルド (演)			
S · K · 訳			
ラルチット (演)			
K · O · 生 (訳)			
雜 錄			
故同志社總長新島襄先生の靈に告ぐ			
〔漢詩〕 追悼新島先生			
辛卯元旦			
同志社礼拝堂日誌			
批 評			
村田・松浦二君合訳「新島先生伝」			
村田勤君著「路錫」			
松村介石君著「阿伯拉罕、倫古龍」			
S · S · S			
K · K · K			
24 23 22	21 20 20 18	12 6	2 1
橋本 嘉作	望月 興三郎		
坂本 義夫			

本会報告

○新入会員会友及退会員 ○地方会会友諸君に告ぐ二件

記事

N · Y · 生  
美為的宗教

N · Y · 生  
19

- 同志社新年 ○新年始業 ○連夜祈祷会 ○予備校補充科 ○体操科の新機軸 ○同志社教員親睦会 ○在米森田教師の來簡 ○二十四年度同志社体格試験表 ○ソル・エドウソン・アルノルド氏

雜錄  
學界覇聞 (ト)  
ハーバート大学の哲学部  
〔新体詩〕芥種の信仰

上

中瀬古六郎  
S · S · 生  
25

故總長一周忌日

- 第一、一周忌会「小崎、デビス、德富諸氏の演説筆記」

題蘭菊二君之圖

28

- 第二、新墓碑

送金谷士充赴東京序

30

- 第三、学生追悼会

同志社礼拝日誌

29

- 本会報告

「評論の評論」

29

- 新撰役員 ○入会及退会者 ○山率軍兵、太田九之八西氏

批評

28

- 本会報告

記事

28

- 第四十号 (明治24·2·28)

○勅題と故總長の真像 ○故總長の真知己 ○同志社に対する故總長の遺言 ○同志社教會バンドミーチング

28

- 文學会雑誌

○本会の総会 ○理化学会講演 ○同志社演説会 ○夜の説教 ○同志社の紀元節 ○教員親睦会 ○女学校に於る実業演説 ○猪狩 ○再版も亦尽く

36

- 教育の目的 (ト)

浮田 和民

30

- 論 説

小野英一郎

32

- 工業の進歩と道徳の変遷 (ト)

5

36

- 英聖書の英語及び英文学に於ける影響

ケーデー

32

- 約翰伝の真書なるを論す (ト)

ラルズット〔演〕

32

- K · O · 生〔訳〕

17

32

報告

32

○新入会員 ○本紙改良に就き資金の臨時捐金者名及総額 ○本会会友制を廢す ○本誌配達遅延又相漏れ候御断 ○会費未納諸君へ ○会費払込について及転居の節の報道

32

『同志社文学』総目次

		本会概則			
		金衣公子伝 同志社礼拝堂日誌	花田政吉		
第四十一号 (明治24・3・25)		論 説		批評	
文学会雑誌		教育の目的 (二)		「開闢新論」 西洋諸雑誌の批評	
贖罪説一班 (二)		工業の進歩と道徳の変遷		南 海 子	
支那哲学の一大欠点		我党ノ尊皇主義		花田政吉	
浮田和民 1		浮田和民 1		33 32	
記事		ゼ・デ・デビス 3		38 37	
○中村社員の帰京 ○佐久間教授の辞職 ○栗生新教師		小野英次郎 9		32	
○教員親睦会 ○同志社演説会 ○ボックストン氏とス		木村鎮太 14		32	
ピッヘル氏 ○在米広津氏の来簡 ○在米の同志社出身		沢本虎治 17		32	
者 ○本誌の附録				32	
会告				32	
○本誌改良資金義捐者名及総額 ○雑誌代送付について				32	
二件 ○封紙茶色の配達雑誌 ○会費払込 ○転居の報				32	
道 ○本誌見本				32	
ゴーラード・スマミス〔作〕		武内忠次郎〔訳〕		32	
素軒 学人 19		しら 雲 29		32	
白 涯 子 24		南 風 26		32	
南 風 24		南 風 26		32	
会告		会告		32	
○本誌改良資金義捐者名及総額 ○雑誌代送付について		○本誌改良資金義捐者名及総額 ○雑誌代送付について		32	
二件 ○封紙茶色の配達雑誌 ○会費払込 ○転居の報		二件 ○封紙茶色の配達雑誌 ○会費払込 ○転居の報		32	
道 ○本誌見本		道 ○本誌見本		32	
塙井 浩堂 31		塙井 浩堂 31		32	
徳王 作蔵 30		徳王 作蔵 30		32	
波里斯理化学校開校式を擧ぐ		波里斯理化学校開校式を擧ぐ		32	
カイム氏約翰伝論批評		カイム氏約翰伝論批評		32	
ラーネット		ラーネット		32	
文学会雑誌		文学会雑誌		32	
猪俣再討檄		猪俣再討檄		32	
失題		失題		32	
樟某女 椿新島先生		樟某女 椿新島先生		32	
瓜生二楠		瓜生二楠		32	
無名氏		無名氏		32	

## 『同志社文学』総目次

贖罪説一班	(1)	ゼ・デ・デビス	第四、ハリス氏の書翰
太陽系統之行末		村上春太郎	第五、演説(加藤博士及長井博士代理小磯氏の演説)
世人に紹介すべき一文字		児玉亮太郎	第六、祝文(柳原伯の祝詞、箕作教授の祝文、北垣府知
洋行者としての同志社出身者		増野悦興	事祝文抜摘要)
雑録			
米文学とエモルソン		美軒小史	
天然と人間	(2)	白涯子	○会費払込
学界彙聞	(3)	南風子	○雜誌代送付
〔英詩漢訳〕荒村	(2)	ゴーリード・スマス(作)	○封紙茶色の配達雑誌
〔漢詩〕宇治途上・嵐山途上		武内忠次郎(訳)	
遊天王山謁十七士之墳墓		塙井健太郎	
読伯夷伝		玉井掬水	
同志社礼拝堂日誌		門田新六	
記事			
○新社員 ○湯浅社員 ○バーネット氏 ○感謝会	36	33	33
○神学講演 ○同志社春季大運動会 ○同志社大学政治	32	32	32
理財部の方針			
波里斯理化学校開校式			
波理斯理化学校の図			
第一、外觀			
第一、開校式			
第三、變應			
公 告			
○本誌見本			
第七、縦覧			
第四十三号 (明治24·5·30)			
文學会雑誌			
論說			
基督教人ノ説	(4)		
ファイロー及約翰の「ロゴス」	(1)		
パットン・ゼー・グローヴ(著)			
水星経過及び皆既月蝕			
クリスティアン青年の心事			
長歌に就て			
大津紀行			
雑録			
大谷首次郎		三宅荒穂	
橋本囁月		南海生(訳)	
高橋鷹藏		村上春太郎	
橋本囁月		高橋鷹藏	
42 41	39 38		
37 37 37	36	33 33 32	26
			22 19 16

## 『同志社文学』総目次

六日間旅行						
〔漢詩〕思父母・訪小町庵						
祝自由天地発刊						
同志社礼拝堂日誌						
夢遊芳川記						
哀々録						
通 信						
ボストン府重要な学校 (加藤勇次郎来簡)						
ボストン府留学の學費 (加藤勇次郎来簡)						
晩霞丘						
(加藤勇次郎来簡)						
エール大学の現況 (市原盛宏来簡)						
記 事						
○露國皇子殿下御慰問						
○奉迎と奉送						
○臨時祈禱会						
○原田助、湯浅吉郎西氏						
○ゴルドン、ワイコフ西氏						
○同志社演説会 ○河本巡回説教師						
○聖書之友大会						
○本会の臨時会						
同志社政法学校第一回報告						
〔大學教育の目的・政治学科・理財学科・教授法・學派並に課程・政治学科・入学及び管理法〕						
小野英次郎	39	35	34	33	33	32
第三回夏期学校趣意書						
会 告						
○入会退会者 ○本誌改良資金寄贈者 ○雑誌前金払込						
岳 山 子						25
塙井健太郎						
孤 寒 生						
花 田 政 吉						
浮 田 和 民						
小野英二郎(漢)						
三 宅 荒 毅						
山 川 隆 一 郎						
久 保 庄 三 郎						
無 名 氏						
南 風 子						
白 湛 子						
橋 本 嘴 月						
同 鳥 生						
玉 井 静						
掬 水						
徳 王 作 藏						
送 我 獲 章 業 諸 氏						
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
29	29	29	29	29	29	29

及封紙茶色の雑誌 ○雑誌代払込について二件 ○購  
読者転居の通知 ○雑誌見本 ○正誤  
広 告 第三回夏期学校設立資金御寄附ヲ仰グ

第四十四号 (明治24·6·30)

### 文学会雑誌

#### 筋骨的基督教

#### 論 説

#### 米国に於ける学会の景況

#### 基督教教ノ説 (二)

#### フワイロー及約翰の「ロゴス」 (二)

#### パットン・ゼー・グローブ (著)

#### 小野英二郎(著) 南海生(訳)

#### 雜 錄

#### ゴルドン教師の帰郷を送る詞 妹の佛

#### 〔学科に志す学生の感概〕

#### 学界兼聞 (四)

#### 天然と人間 (三) 〔短歌〕一首

#### 〔漢詩〕初 夏

同鳥生  
掬水

徳王  
作藏

29 29 29 29 29 29 29

『同志社文学』総目次

中村繁太總太伝 同志社礼拝堂日誌 記事	門田 新六	30		
○地久節 ○十三百印の寄附 ○「ゴルドン教授」○同志 社演説会 ○歓迎会 ○ホワイト女史 ○園遊会		35 32		
○浮田・下村両教授の結婚 ○露無・太田両氏				
同志社校友会記事				
小崎校長就任式				
同志社第十六回卒業式				
同女学校卒業式				
看病婦学校卒業式				
第四十五号 (明治24・8・15)				
文学会雑誌 同志社と其卒業生				
論 説				
本年の同志社卒業生に対して				
同志社女学校卒業生に対して				
人の堅城 (本課神学卒業演説)				
福音宣伝者 (別課神学卒業論文) (一)				
島田 三郎 [演] 海老名彈正 [演] 露無 文治 [演] 花田岩五郎	12 7 6 3	1		
同志社 神学 普通学校 政法学校				
会 告				
○雑誌前金払込 ○封紙茶色の到着雑誌 ○雑誌代金払込について二件 ○購読者転居の節の通知 ○雑誌見本 ○正誤				
35	38 37 36	30 25	25 24 22	18 15
吉田 顯三 牧野 實次	内藤一雄氏を悼む 「今日の化学」抜萃 祭新島先生文 〔新体詩〕同志社学校の歌 〔漢詩〕范蠡・蘭相如 岸本能武太君書翰 記 事 志社の改正規則 ○同志社予備校補充科 ○市原盛宏君 の統計 ○夏期伝道者 ○ホワイト、スマス両娘 ○新婚 ○短艇の豪遊 ○事実捏造の卑劣手段 予備学校 普通学校 規則略覽	ウイリアム・クルックス〔著〕 南風子〔訳〕 山崎哲藏 門田 新六 南風子 山崎哲藏 門田 新六 吉田 顯三 牧野 實次		

『同志社文学』総目次

<p>広 告</p> <p>同志社生徒募集 予備学校・普通学校・神学校・理化学校・同志社政法 学校 同志社女学校生徒募集 同志社波理須理化学校生徒募集</p>	<p>本誌再度の改進</p> <p>論 説</p> <p>心法專攻論 神學的教育に於ける理論と實際の調和</p>	<p>第四十六号 (明治24・9・30)</p> <p>松尾音次郎 コルチス〔演〕 上田周太郎〔訳〕 花田岩五郎 児玉亮太郎</p>	<p>文 學 雜 誌</p>	<p>記 事</p> <p>○クラーク神學館 ○同志社の新教師 ○同志社の外国语 語 ○政法學校 ○本年の新入生 ○去學年の卒業生 ○本學年の卒業生 ○新入生歡迎会 ○マイヤ氏歡迎會 ○新教師歡迎会 ○同志社女學校の改革 ○沢辺文庫</p>
<p>雜 錄</p> <p>南州翁の逸事 そゝろ書 仏語略解 文芸瓊談 (一)</p>	<p>鹿 州 子 糺林の逸人 直 心 居 士 魔 々 子 南 風 子</p>	<p>27 26 25 22 21</p>	<p>17 11 7 3 1</p>	<p>1</p>
<p>同志社図書館の図</p> <p>文 學 雜 誌</p> <p>同志社政法學校設立の始末 紀念文庫開設につきて</p> <p>論 説</p> <p>人の幸福は天職を尽すに在り</p>	<p>花 庫 健 起</p> <p>小崎 弘 道 浮 田 和 民</p>	<p>31 30 29 29 29</p>	<p>花 庫 東 洲 望 月 散 人 高 口 三 行 河 村 虎 子</p>	<p>38</p>
				36

『同志社文学』総目次

歴史的思想の発達を論じて紀念文庫に及ぶ（略載）

地球内部の状態を論ず

雑録

日本仏法伝通記略

松の落葉

古人と今人

シーハンフォルド・ヘンデルソン〔著〕

南州翁の逸事

母を悼む

科学叢談

〔一〕

〔漢詩〕泰西動物学者・人生・偶感

〔新体詩〕堅忍賦

記事

○皇太后陛下 ○新入生百六十名 ○同志社講義会

○羅甸語 ○同志社政法学校設立の始末、第一回報告

○新教師歡迎会 ○看病婦学校新教師歡迎会 ○同志社

病院と看病婦学校 ○問答欄の新設 ○各級委員

○本会の職員

○小室沢辺紀念文庫開庫式

○小室信介氏小伝

○沢辺正脩氏小伝

○小崎弘道氏演説

問答 仏教の一切經

○本誌發行日改定 ○余費未納者へ

○雜誌茶色の到着雑誌 ○雜誌前金払込

○雜誌代金について二件 ○購

○讀者転居の節の通知 ○雜誌見本

小野英次郎

村上春太郎

12 9

直心居士

服庸子

20 16

水含生訳

鹿州子

阪本義夫

31 25

浩堂散士

玉井李堂

33 32

南風子

33 31

扇浦

論説

神學思想と確信的新生命

基督と一体

地震略説

現今日本青年の覺悟

東海散士柴四郎君に与ふ書

雑録

カーライルがゲーテへ贈りし書翰

素軒学人〔訳〕

40

40

42 40 40

第四十八号 (明治24·11·20)

国防的体育論

文学雑誌

古賀快象

宮川経輝

小崎弘道〔演〕

鈴木達治

石塚正治

龍山子

21 18 15 9 6 4 1

## 『同志社文学』総目次

新島先生渡米の目的

立花宗茂の逸事

科学叢談 (一)

松の落葉 (二)

故恩地寅一氏を念へ

文芸頃談 (二)

〔漢詩〕客中秋感 (二)

漁村秋夕 (二)

〔短歌〕一首 (二)

〔新体詩〕秋晚 (二)

岡山県学友親睦会記

同志社礼拝堂日誌

通信 東京通信 (慶心義塾の組織及其有様の一班)

北越通信

記事

- 勅語奉読式 ○同志社大運動会 ○運動会賞品授与式
- 大地震に就て 「見舞と视察・医師と看病婦・第一回義捐金・第二回義捐金・衣服夜具の送致・第三回義捐金」
- 震災者救恤報告 ○同志社演説会 ○同志社理化学校講談会 ○同志社講義会 ○原田教授の帰朝 ○中島教

新島  
南海  
裏〔著〕  
生〔訳〕

無名氏  
南風子  
阪山子  
蘆庸子  
橋本子  
花田子  
S·U·生

魔山子  
龍庸子  
服庸子  
タ子  
義夫子  
雪庸子  
月庸子  
氏庸子

33  
30  
27  
23

36  
37  
38  
38

33  
30  
27  
23

36  
37  
38  
38

33  
30  
27  
23

36  
37  
38  
38

33  
30  
27  
23

36  
37  
38  
38

33  
30  
27  
23

33  
30  
27  
23

33  
30  
27  
23

33  
30  
27  
23

33  
30  
27  
23

33  
30  
27  
23

33  
30  
27  
23

33  
30  
27  
23

33  
30  
27  
23

師の辞職 ○故山崎義徳先生十周年忌会 ○故恩地寅一 氏紀念会 ○校内雑誌発行 ○女学校の義捐 ○通信 欄	問 答
〔病理上灸の効用如何〕 〔越前の愛発閥〕	坐禪する方法 〔仏教は無神教なりや将た有神教なりや〕 長講堂領と徳宗領
○故新島総長の二周忌について ○会費未納者へ ○雜誌前金払込 ○封紙茶色の到着雑誌 ○雜誌代金払込について二件 ○購読者転居の節の通知 ○雜誌見本 ○正誤	会 告
第四十九号 (明治24·12·20)	
故新島先生二周年 本会の一大計画 文學雑誌 同志社の一一致	
恩寵ト真理 (約一〇一七) 論 説	
浮田 和民	

## 『同志社文学』総目次

地中之空氣	(一)
本邦陶器ノ由来	(一)
責任論 II 同志社予備学校生徒	(一)
文章の三要素	
雜錄	
天狗の弁	
科学叢談 (二)	
松の落葉 (三)	
悲境之旅	
日本仏法伝通記略 (二)	
南州翁の逸事 (三)	
〔新体詩〕はかまるり	
夕暮	
〔短歌〕二首	
〔漢詩〕聞外村氏卒然就眠有感・書懷	
〔新体詩〕富士山〔漢詩及英詩〕	
〔短歌〕寄道述懷	
〔漢詩〕謗狂子	
除夕作次副島伯韻	
漁村秋夕	
同志社礼拝堂日誌	

栗生 光謙〔演〕	中瀬 古六郎〔記〕	6
平瀬 龍吉	松山 高吉	10
松浦 政泰	担庵 主人	13
白鶴城	南風子	16
服庸子	山崎直心	19
鷺城	居士	22
天遊子	鹿州子	24
山崎天風	湯浅吉郎	26
坂本嘯月	天風子	28
造堂散史	山崎為徳	32
N·Y·生月	橋本嘯月	35
37	37	37

○故新島總長の二周忌について	○会費未納者へ	○聖書之友
○故稻垣滿次郎氏	○封紙茶色の到着雑誌	○理化講談会
○同志社大演説会	○雑誌代金払込について二件	○同志社
○同志社教員観禮会	○購読者転居の節の通知	○同志社
○同志社予備学校補充科幼年部	○正誤	○同志社
○同志社	○会告	○聖書之友

第五十号 (明治25·1·20)	論 説
全世界に於ける日本の位置	
成功ノ根本	
本邦陶器ノ由来 (二)	

稻垣滿次郎〔演〕	松山 高吉
デビス	

『同志社文学』総目次

雑録													
松の落葉	四												
〔新体詩〕	ニュートン												
〔短歌〕	四首												
〔漢詩〕	壬辰元旦書感												
粟津原懷古・覽兼平遺劍有感													
同志社礼拝堂日誌													
学舎寒宵偶成													
名古屋における同志社出身者													
校友会記事													
新島先生紀念募集中金報告													
記事													
○新年祝会	○新年夜会												
○連夜祈祷会	○冬期休業												
○新教師招聘	○六千弗の寄附												
○同志社教金木盆を受	○同志社教金木盆を受												
く ○稻垣満次郎氏の演説	○政法學校												
会 ○祈祷会	○理化學講談												
○本誌の表題	○新島先生一周忌会												
○諸名士寄送の文	○諸名士寄送の文												
会告													
○本音附録等の為の寄附	○新入会者												
○会費未納者へ	○会費未納者へ												
○雑誌前金払込	○封紙茶色の到着雑誌												
○雑誌代金払込	○雑誌代金払込												
第五十号 附録	(明治25・1・23)												
服庸子	某教師	15	14										
みやこ	坂本義夫	18	18										
高口三行居士	愛山	18	18	18									
やの生	一見生	20											
24	22	21											
新島襄君に就て	〔漢詩〕偶成												
〔短歌〕一首													
〔漢詩〕上原途上 一首													
新島先生書翰写し													
〔漢詩〕庭園之梅													
〔短歌〕函館を脱せらるゝ時 一首													
追念故総長													
〔漢詩〕失題													
アーモスト大学に於ける先生の同級生よりの追憶の書翰													
Charles H. Daniels													
他 1 名													
21	21	19	19	19	19	16	16	14	14	14	13		
新島庸一	新島尚長	新島裏	新島裏	新島裏	新島裏	新島尚長	新島裏	新島裏	新島裏	新島裏	新島裏		
安房弘	中井弘	新島襄	新島襄	新島襄	新島襄	新島襄	新島襄	新島襄	新島襄	新島襄	新島襄		
物部													

〔長歌〕 今やう 四首

相庵 居士 22

新島の大人がみまかり給てより  
二とせなりける年の一月同志社の学校にも紀  
念のわざしければ

〔短歌〕 二 首

長睡子 31

〔短歌〕 一 首

1

〔漢詩〕 新島先生墓

1

〔短歌〕 新島先生

高吉 24 24 24 23

新島先生の柩を門に昇き入れんと

する時 二首

高吉 24 24 24 23

〔漢詩〕 思新島先生

同鳥生

佐々倉天風  
徳王 作蔵 25 24

〔短歌〕 新島先生 二首

塙井 浩堂  
林孚一 24 24 24 23

〔漢詩〕 新島先生墓前作 三首

高吉 24 24 24 23

〔短歌〕 新島先生の二周忌に

高吉 24 24 24 23

追慕新島先生 二首

高吉 24 24 24 23

大磯湾上又今年

高吉 24 24 24 23

片々

高吉 24 24 24 23

大磯湾

高吉 24 24 24 23

新島先生

高吉 24 24 24 23

○洛陽の一平民 ○新島先生と吉田松陰 ○真紀念

高吉 24 24 24 23

○不撓不屈 ○先生の五大徳 ○愛 ○一大詩歌 ○板

高吉 24 24 24 23

垣伯と新島先生 ○伍平評せず ○七年一叱 ○七円の

高吉 24 24 24 23

○無意の感化 ○厚礼

高吉 24 24 24 23

〔短歌〕 華聖頃幼時の規則  
夢の裡にて夢を談す

(一)

新島先生の和歌  
新島家の和歌

(一)

〔短歌〕 三首

(一)

病床の重夢 (一)

長睡子 31

第五十一号

(明治25・2・20)

文学雑誌

新島襄先生に就て  
對外策上の日本 (一)

論 説

新島襄先生に就て  
有神論

對外策上の日本 (一)

写眞術之沿革 (一)

完伝道者

雜録

(一)

病床の重夢 (一)

(一)

此追慕の情を如何

(一)

數学者ルーミス

(一)

前々夜

(一)

新島先生逸事

(一)

華聖頃幼時の規則

(一)

新島家の和歌  
新島家の和歌

(一)

〔短歌〕 三首

(一)

宮川 綏輝(演)

稻垣滿次郎(演)

平瀬 龍吉

4

西山 教充

10 6 4

1

宮川 綏輝(演)

稻垣滿次郎(演)

平瀬 龍吉

4

笠巒学人(訳)

湯浅 滉吉

13 10 6

1

笠巒学人(訳)

湯浅 滉吉

13 10 6

1

下園 生洋

27 24 20

1

村上春太郎

27 24 20

1

黄 森

27 24 20

1

若 嘘

33 32 29

1

牧野 吉郎

33 32 29

1

散史 信

33 32 29

1

笠巒

38 38 35

1

『同志社文学』総目次

〔漢詩〕 看梅雜詩・二月六日上三井寺	学舎寒宵即事	蘆 桂 愛	宇川盛三郎	大阪之大会
冬夜登愛宕山		や・乃・生	稻垣満次郎〔演〕	論 説
賢母謂鎖苦刺智須曰・鎖苦刺智須曰	同志社礼拝堂口誌	浩堂 散史	石塚 正治	谷干城君の演説
批評		や・乃・生	西山 教充	地方自治
前号之附録を読む		雲 峯 生	山 花 雪	対外策上の日本 (二)
記事		44	41	貧民救助策
○紀元節祝会 ○故新島先生紀念会 ○同紀念夜会		39	39	写真術之沿革 (二)
○新島先生の油画額一面 ○同志社教會記事 ○宣教師の來校 ○教員の辭職 ○閔友一氏 ○同志社大演説会		39	39	
○新婚 ○同志社病院患者表 ○京都看病婦學校卒業生被雇規則 ○本誌第五十号		39	39	
会告		44	41	
○新入会員姓名 ○雑誌前金払込 ○封紙茶色の到着雑誌 ○雑誌代金払込について二件 ○謹説者転居の節の通知 ○雑誌見本		39	39	
〔短歌〕 一首	〔某死書簡〕	新島 裕	宇川盛三郎	
病床の重夢 (三)	先憂遺稿に序す	長睡子	稻垣満次郎〔演〕	
華聖頓幼時の規則 (二)	おばしゃれ章	鹿州山人	石塚 正治	
〔短歌〕 一首		笠麓 学人	西山 教充	
〔漢詩〕 雪夜泛舟探梅		ひ・ふ・生		
客窓聴鶯		嘯月 散史		
哭花島健起君		若 蘆 愛		
礼拝堂口誌		浩堂 散史		
記事		や・乃・生		
○谷干城・宇川盛三郎両氏 ○森田思軒居士の來校 ○同志社大討論会 ○日本憲法上の討論会 ○ポート競漕		30	30	
第五十二号 (明治25・3・20)		30	30	
34	30	30	30	1

## 『同志社文学』総目次

会	○花畠健起氏逝く	○花畠氏の葬儀	○同志社大演説会概評	○同志社女学校	○柏木義田氏	○同志社病院の施療
校友会記事						
○同志社校友会綱領		○同志社校友会員名簿(第一)				
会告						
○雑誌前金払込	○封紙茶色の到着雑誌	○雑誌代金払込について二件	○購読者転居の節の通知	○雑誌見本		
第五十三号	(明治25・4・20)					
文学雑誌						
盛衰興亡之兆						
論說						
日本現時の文学						
同志社ノ基礎						
宗教の暗黒面						
雑録						
病床の重夢	(四)					
裁松宝山良雄君						
漢學衰頽の原因						
我と小兒						
禿筆漫録						
奈良土産						
月瀬紀行						
〔短歌〕三首						
案山子廻舎社員取会詠						
京都第一社中						
三輪長行						
新原俊秀						
湯浅吉郎						
大西祝						
湯浅吉郎						
新原俊秀						
望月興						
大西秋海						
信川舟子						
阪本義夫						
H·F·生						
池袋清風大人						
寒梅小史						
鹿州子						
橋本嘯月						
無々子						
字宙子						
31	29					
40	37					
1						
17 13 3	1					
26 22						
〔漢詩〕訪故新島先生旧居						
藤房遍世図・常盤姫雪行図						
春夜な舟						
聞鶯						
登笠置山探行宮趾						
記事						
○同志社々員会	○本校規則の変更	○アイザック・シ				
ヤフト氏の来校	○受洗者	○同志社演説会及批評				
○ボート競漕会						
○同志社女学校						
○同志社病院						
42 40 40 40 40	40 39 39 39 39	39 39 39 39 39	39 36 34 32 31	29		

『同志社文学』総目次

校友会記事

○紀念神学館奉附金(第二回報告) ○校友会員名簿(第一)

会告

○雑誌前金払込 ○封誌茶色の到着雑誌 ○雑誌代金

払込について二件 ○購読者転居の節の通知 ○雑誌  
見本

第五十四号

(明治25・5・20)

同志社文学  
論説  
観物二様の見

小崎 弘道

同志社文学に題す

論説

銀貨下落

鉄腕健脚

宗教的修養ノ二大要素

田口卯吉〔演〕

古賀 快象

大藤 重賢

雜報

雜録

アレキサンドル・ビヨー氏  
マーク・ホプキンス

散筆片々

隨感隨筆

南海生  
三谷久太郎〔訳〕  
宇宙子  
泉哉野夫

24 24 21 16

12 10 5 2 1

〔漢詩〕述懷二首・就眼前病床上之作  
偶感・春日偶成

修学旅行記

故東洲花畠健起  
浩堂 散史  
花田 政吉

藤山 藤山 藤山 藤山 藤山 藤山  
山 長山 長山 長山 長山 長山 長山

尾輪 田野 尾田 尾田 尾田 尾田

35 35 35 35 35 35

35 35 35 35 35 35

35 35 35 35 35 35

35 35 35 35 35 35

35 35 35 35 35 35

35 35 35 35 35 35

35 35 35 35 35 35

45

一致団結(物理応用)

病床の重夢(国)

南洲翁之遺訓(一)

发声法及发声器養生法(同志社病院)

〔短歌〕二首

案山子廻舍社点取会詠  
京都女第三社中(一)

橋本 曜月  
鹿州 睡蠶子  
笠子

34 33 32 27 25

○美學的京都 ○文學寮と神學館 ○第三高等中学運動  
大会 ○同志社端艇競漕 ○北越学院 ○泰西字學館  
○東亜学館と熊本英学校 ○同志社本年の卒業生 ○學  
術講談会 ○須田勝三郎君 ○ラッド博士の來遊  
○花散り人逝く〔史家フリーマン氏〕 ○アンドバ神学校

38 36 36 35 35 35 35 35 35 35 35

35 35 35 35 35 35 35 35 35 35 35

35 35 35 35 35 35 35 35 35 35 35

35 35 35 35 35 35 35 35 35 35 35

35 35 35 35 35 35 35 35 35 35 35

35 35 35 35 35 35 35 35 35 35 35

35 35 35 35 35 35 35 35 35 35 35

『同志社文学』総目次

社会告白

○本誌寄稿諸君へ ○雑誌前金払込 ○封紙茶色の到着  
 雜誌 ○雑誌代金払込について二件 ○購読者転居の節  
 の通知 ○雑誌見本 ○思軒居士森田文藏君の寄稿「日  
 本国現時文学」

第五十五号 (明治25・6・20)

厭世的觀念

論 説

歴 史 論 (一)

男 子 の 快 事

雜 錄

南 洲 翁 遺 訓 (二)

〔新体詩〕同志社学校の歌

〔短歌〕らるねーで教師の帰国を送りて

案山子廻舎社点取会詠

京都女第三社中 (二)

一 首

一 首

一 首

一 首

一 首

三 山 福 藤 長

輪 田 田 尾 野

15 15 15 15 15

天 風 子

湯 浅 吉 郎

15 14 12

鹿 州 子

9 6

鎌 田 亥 四 郎

1

雜 報

〔漢詩〕失題・過植木  
送教授羅寧度氏席米國

藤 藤 尾 輪 田 尾  
山 三 故人花畠 健起  
同鳥 散士 竹

内尾輪田尾

16 16 16 16 16 16 15

16

○慶應義塾体育会設立の模様 ○紀念書籍  
 学 ○青年男女の悔改 ○理科学校賞学金 ○ラッド博士の講演 ○ラーネッド教授 ○会報片々 (理化学講談  
 会・看病婦学校第五回卒業式・同志社女学校第九回卒業  
 式・文学演習会・同志社校友会・普通学校並神学校第十  
 五回卒業式・園遊会)

○花洛の女  
 ○ラーネッド教授 ○会報片々 (理化学講談  
 会・看病婦学校第五回卒業式・同志社女学校第九回卒業  
 式・文学演習会・同志社校友会・普通学校並神学校第十  
 五回卒業式・園遊会)

人事片々 (其一帰朝・森田久万入氏、市原盛宏氏、加藤

勇次郎氏)

人事片々 (其二帰國・ラーネッド氏、バックリー氏、ブ  
 ラオン女史)

要吉氏)

人事片々 (其三洋遊・津田次郎氏、広瀬源三郎氏、青木

要吉氏)

ラッド教授講演

宗教哲学 (一)

ラッド教授講演

浮田和民 (訳)

21

20

20

19

『同志社文学』総目次

林子平	求己生	
批評		
望月興三郎著「家族主義女子教育」		
トマス・アケンビ著「基督之模範」		
○前号発送日遅延 ○本誌寄稿諸君へ ○雑誌前金払込		
○封紙茶色の到着雑誌 ○雑誌代金払込について二件		
○購読者転居の節の通知 ○雑誌見本		
広告		
女学校新科設置		
紀念神学館寄附金調（第四回報告）		
第五十六号 (明治25・8・5)		
同志社文学		
関西の事業		
論説		
宗教哲学 (1)		
ラッド（演）		
浮田和民（訳）		
雑録		
わが懷疑と平和		
琵琶湖遍遊記		
〔新体詩〕 読蕉翁遺稿		
愛山生		
塩井浩堂		
樂天子		
福間文太郎		
34 34 31 28	2	1
同志社生徒募集		
広告		
○本誌寄稿諸君へ ○雑誌前金払込		
○封紙茶色の到着雑誌 ○雑誌代金払込について二件		
○購読者転居の節の通知 ○雑誌見本		
○正誤		
社告		
第五十七号 (明治25・9・20)		
同志社文学		
関西の事業と教育		
1		
37 36 36		35

論 説

歴 史 論

トマス・カーライル（卒業論文）

我家の維新—憤の一字

雑 錄

田口卯吉君

徒に英雄を談するを休めよ

縁藪余滴

偶 感

〔新体詩〕田面の夕

〔漢詩〕偶 成

雑 報

○「九州文学」と「大江」

○「新日本史」中巻

○泰西学館 ○同志社の新職員

○前年の卒業生 ○入学志願者

〔漢詩〕四明雜咏

〔新体詩〕若武者

社 告

○本誌寄稿諸君へ

○雑誌前金払込

○封紙茶色の到着

○購読者転居の節

の通知 ○雑誌見本

校 友 会 役 員 改 換

広 告

田口卯吉(演)

二宮 峰男

山崎 直

12 7 3.

第五十八号

(明治25·10·20)

同 志 社 文 學

普 通 教 育 論

論 説

人 物 の 販 路

〔短歌〕一 首

欧米学生の状態

〔漢詩〕秋夜読書

單一弦運動ヲ論ズ

〔俳句〕二 句

今后の国勢と武士風

〔短歌〕一 首

雑 錄

余が最も喜ぶ祝辞

〔漢詩〕秋日田村

京都産ノ食虫植物

〔俳句〕一 句

紀伊の偉人鈴木飛弾守重幸

〔短歌〕一 首

永田幸太郎君を追憶す

佐伯理一郎(演)

小野英二郎

曠月 散士

斗南 逸士

村上春太郎

南陽 生

伊庭菊次郎

天風子

佐 佐

浩 堂

服 部

他 助

南 阳

生

尼玉亮太郎

森田九萬人(演)

吉 谷 久 編

嘯 月

吉 谷 久 編

吉 谷 久 編

吉 谷 久 編

吉 谷 久 編

『同志社文学』総目次

〔漢詩〕石山客舍	鶴月紀行 (一)	下保津川記	美人の骸骨	〔漢詩〕須磨客舍	〔俳句〕一句	〔短歌〕案山子廻舎社点取会詠	京都第四社中
浩	鹿州	子	30	30	30	30	30
鹿州	なんやう	33	33	33	33	33	33
北溪	学人						
聰秋	子						
下溪	樵夫						
湯谷	穣一郎						
湯谷	穣一郎						
兼松	電太郎						
岡田	庸輔						
岡田	庸輔						
雲峯	生	よみ人知す					
湯谷	穣一郎	よみ人知す					
岡田	庸輔	よみ人知す					
40	40	39 38	37 37 37 37	37 37 37 37	36 36 33	36 36 33	30
批評	「新日本史」	中巻	論	論	論	論	
雑報	〔短歌〕	一首	〔短歌〕	一首	〔短歌〕	一首	
○京都の秋色	○京都と文學	○歐米の大文學者逝く	○基督教徒の公開状	○関西地方教育大会	○學術講談	○校友会員にして同志社文学代未納者へ	○本誌大売捌所及売捌所
○同志社演説会	○同志社生徒議会	○同志社の					

第五十九号

(明治25・11・20)

同志社文学

勅語と基督教

論說

同志社学生諸君に望む

片岡健吉(演)  
月 嘘

田村初太郎(演)  
坂本義夫

アルブレクト  
月 嘘

(一) 嘘

大谷音次郎  
月 嘘

歓迎会

- 同志社本年の普通科卒業生 ○人事一束
- 同志社女学校 ○同志社病院 ○施療法 ○同志社看
- 病婦学校 ○当校卒業生の需要
- 社告
- 本誌寄稿諸君へ ○雑誌前金払込 ○封紙茶色の到着
- 雑誌 ○雑誌代金払込について二件 ○購読者転居の節
- の通知 ○雑誌見本 ○第五十六号不足の段 ○雑誌代
- 未納者へ ○大阪福音社との特約 ○本社の会計掛
- 校友会員にして同志社文学代未納者へ ○本誌大売捌
- 所及売捌所

『同志社文学』総目次

〔短歌〕	一首	坂東	陸三
第四博覽会に就て			
〔短歌〕	一首		
雜錄			
明治の新文學者			
夜半の冥想	一首		
婦人の眼			
鶴月紀行 (1)			
上鞍馬山記			
〔漢詩〕山科懷古・読史雜感	五首		
〔新体詩〕同志社神學館の定礎式			
天長節運動会の軍歌			
秦山子廻舍社点取会詠			
京都第四社中			
〔短歌〕			
福井大三郎			
兼松龜太郎			
河本乙五郎			
よみ人知らず			
石原太馬吉			
砂場 武			
よみ人知らず			
所			
社会			
○本誌寄稿諸君へ			
雑誌			
○雜誌代金払込について二件			
の通知			
○雜誌見本			
一年分			
○大阪福音社との特約			
所			
○本誌寄稿諸君へ			
○雜誌前金払込			
○封紙茶色の到着			
○雜誌代金払込について二件			
○購読者転居の節			
○雜誌代未納者へ			
○本誌代価			
○本誌大売捌所及売捌			
露		月	
六無 散人	月	月	
天風子	26	26	
宇宙人〔訳〕	28	26	
美軒 小史	29	26	
よみ人しらず	29	26	
ふ・ふ・生	29	26	
鹿州子	30	26	
門田 新六	34	26	
中井 弘	37	26	
湯浅 吉郎	36	26	
雲峯生	38	26	
雲峯生	39	26	
雲峯生	40	26	
雲峯生	41	26	
坂東	42	26	
陸三	39	26	

## 第六十号

(明治25·12·20)

## 目次

同志社文学	如何にして冬期休業を費す可き乎	勅語と基督教(井上博士の意見を評する)	基基督時代に於ける猶太人の宗教思想(二)
〔漢詩〕過函山	宮津港開港に就て	窒素及其化合物	講演
何ぞや(一)	〔俳句〕二句	〔漢詩〕壬辰十一月念六日与友人登數山	医学と理学の関係
近眼の話	〔俳句〕一句	〔漢詩〕王辰十一月念六日与友人登數山	〔俳句〕二句
機織り女	〔漢詩〕雜感	〔漢詩〕德富蘇峯君に与ふ	雜錄

坂本義夫	谷川清子	坂本義夫	坂本義夫	浅山郁次郎	三宅雄二郎	南陽	南陽	水川漁夫	六無散人	無筆庵	アルブレクト	石塚正治
29	28	27	26	26	24	19	19	16	14	10	10	7
												2 1

大島正健著「雪月花」第一号	〔批評〕「グラッドストン伝」	〔批評〕「ドストエフスキイ著不不知庵訳小説「罪と罰」第一卷	〔批評〕竹村著「婦人立志篇」上巻	〔批評〕「婦人立志篇」上巻	三宅秀(演)							
〔批評〕「雪月花」第一号	〔批評〕「グラッドストン伝」	〔批評〕「ドストエフスキイ著不不知庵訳小説「罪と罰」第一卷	〔批評〕竹村著「婦人立志篇」上巻	〔批評〕「婦人立志篇」上巻	三宅秀(演)							
〔批評〕「雪月花」第一号	〔批評〕「グラッドストン伝」	〔批評〕「ドストエフスキイ著不不知庵訳小説「罪と罰」第一卷	〔批評〕竹村著「婦人立志篇」上巻	〔批評〕「婦人立志篇」上巻	三宅秀(演)							
〔批評〕「雪月花」第一号	〔批評〕「グラッドストン伝」	〔批評〕「ドストエフスキイ著不不知庵訳小説「罪と罰」第一卷	〔批評〕竹村著「婦人立志篇」上巻	〔批評〕「婦人立志篇」上巻	三宅秀(演)							

雲峯生	雲峯生	雲峯生	雲峯生	橋高橋南浩								
37	37	36	35	34	34	34	34	34	34	34	34	34

## 第六十一号 (明治26·1·23)

- 明治二十五年を送る  
艦の沈没 ○帝国議会  
○吉富辰巳氏の永眠 ○ベース  
ボール・マッチ ○吉富氏の追悼会 ○バックレー教授  
の送別会 ○バックレー夫婦の出立 ○三宅氏の講演  
○元寇幻燈会 ○クラーク氏の来校 ○ベントン教授の  
送別会 ○小使五平氏 ○講談会 ○同志社演説会  
○同志社内の筆写雑誌  
○石塚正治君の送別会

## 同志社の近況

- 三宅横井両氏の来校 ○吉富辰巳氏の永眠 ○ベース  
ボール・マッチ ○吉富氏の追悼会 ○バックレー教授  
の送別会 ○バックレー夫婦の出立 ○三宅氏の講演  
○元寇幻燈会 ○クラーク氏の来校 ○ベントン教授の  
送別会 ○小使五平氏 ○講談会 ○同志社演説会  
○同志社内の筆写雑誌  
○石塚正治君の送別会

本誌の将来  
〔短歌〕新島先生第三周回記念会にて 四首 池袋 清風

故新島先生之筆蹟

同志社文学

改良之辞

堅固なる品性

小崎 弘道

4 1

## 通信

- 在上海醜業婦の実況

上田周太郎

41

論說  
古代仏教ノ心意説  
普通教育論 (1)

くまと居士(述)

柏木 義円

19 12 7

## 広告

- 同志社生徒募集

## 本誌の大改良

## 社告

- 本誌寄稿諸君へ ○雑誌前金払込 ○封紙茶色の到着  
雑誌 ○雑誌代金払込について二件 ○購読者転居の節

- の通知 ○雑誌見本 ○雑誌代未納者へ ○本誌代価一  
年分 ○大阪福音社と特約 ○本誌大売捌所及売捌所

批評

嚴谷漣他著「新作萩桔梗」

桜井成明著「貞婦お石」女学雑誌の巻  
新年附録

松村介石著「デビニチー」

平岡希久著「大観」

講演  
何ぞや (1)

三笠雄次郎(演)

22

雲峯生

28

雲峯生

30 29 29

『同志社文学』総目次

横井時雄訳「天啓教と聖書」	ブイシャル著
桜齋居士著「迷の夢」「国民の友」新年附録	「天啓教と聖書」
透谷子著「宿魂鏡」	横井時雄訳
湯浅吉郎著「天地初発」	桜齋居士著
山路弥吉著「頬裏を論ず」	「迷の夢」「國民の友」新年附録
紫苑山人「ウキルヘルム・テル」	透谷子著
蘇鑒著「池田子尾子」家庭雑誌新年附録	「宿魂鏡」
女学雑誌白表紙附録	湯浅吉郎著
雑録	山路弥吉著
請願居朝之書	「天地初発」
偉人慨世の涙	紫苑山人「ウキルヘルム・テル」
石川丈山	蘇鑒著「池田子尾子」
懐旧瑣談(一)	家庭雑誌新年附録
〔新体詩〕蓮	女学雑誌白表紙附録
蓮池遊	雑録
清経	請願居朝之書
〔漢詩〕山中寒夜・雪夜煎茶	偉人慨世の涙
時評	石川丈山
明治二十六年を迎ふ	懐旧瑣談(一)
悲を以て暮れ、悲を以て暁く	〔新体詩〕蓮
学者の榮誉	蓮池遊
師範学校女子部	清経

谷 菊水 喬子 郎	43 43 43 42	谷 菊水 喬子 郎	42 41 41 40	谷 菊水 喬子 郎	38 35 34 33	谷 菊水 喬子 郎	35 34 33	谷 菊水 喬子 郎	32 32	谷 菊水 喬子 郎	31 31	谷 菊水 喬子 郎	30 30
-----------	-------------	-----------	-------------	-----------	-------------	-----------	----------	-----------	-------	-----------	-------	-----------	-------

醜業婦の渡米	福島少佐を歓迎せんとす
植木枝盛氏之碑	煙管鐘
第四回博覧会	第四回博覧会
文学界の傾向	文学界の傾向
組合教会伝道会社	組合教会伝道会社
文学者の身価	文学者の身価
日本の脳充血病	日本の脳充血病
文学界の偷盜	文学界の偷盜
故総長の遺徳	故総長の遺徳
同志社記事	同志社記事
○同志社の元旦	○新年夜会
○山本覚馬翁逝く	○初週祈祷会
○女学校当期の教師	○新教師
○正誤	○開校式
〔短歌〕山本覚馬翁を追憶してよめる	○談話会
山本覚馬翁略伝	○外人の寄附
山本覚馬翁逸事	○本号の附録

第六十二号

(明治26・2・20)

48 47	44 44 44 44 44 44 44 44 44 43 43 43 43
-------	--

山本覚馬君之肖像

同志社文学

伝道と吾人の責任

論 説

蚕系代用品に就て (一)

京鶴鉄道を論ず (一)

英語教授に付ての希望 (一)

日本人種の弱点 (一)

経済上に於ける女子の勢力

講 談

微生物学の現況 (一)

雑 錄

同志社文学に寄す

懐旧瑣談 (二)

文学は美術か、はた職業か

何ぞ然く驅然たる

宗教社会の新現象

英國勅撰詩人の候補者

山本覚馬翁の逸事

翁の尊大人

翁の銳眼

批評

『同志社文学』総目次

魔々子	大和田建樹著「和文学史」「新撰日本外史」	小崎 弘道
魔々子	萩野由之著「日本歴史評林」	静軒 逸人
魔々子	山田済菴著「十八史略説本」	静軒 逸人
魔々子	六無 散人 8 市原 盛宏 5	静軒 逸人
魔々子	田村初太郎 10 南風子 10	静軒 逸人
魔々子	小野英二郎 17 市原 盛宏 1	静軒 逸人
魔々子	児玉教授(演) 19	文藻
魔々子	〔漢詩〕札幌雪中雜咏 題花月酒樓圖・詠竹	雲峯生
魔々子	〔新体詩〕島千鳥 新島先生紀念のうた	雲峯生
魔々子	第六十三号 (明治26・3・20)	大島 正健
魔々子	基督教をして單調ならしむる勿れ (一)	坂本 義夫
魔々子	日本人種の弱点 (一)	松籟 山人
魔々子	蚕系代用品に就て (一)	柏木 義円
魔々子	文學界の時弊	1
魔々子	山東 學人 35 山本 生子 34 山本 生子 33	43
魔々子	雲峯生 31 雲峯生 29 雲峯生 28	43
魔々子	嚴谷 漣 26 嚴谷 漣 25 嚴谷 漣 22	43
魔々子	靜軒 逸人 26 靜軒 逸人 25 靜軒 逸人 22	43
魔々子	素軒 學人 25 素軒 學人 25 素軒 學人 22	43
魔々子	36	37

『同志社文学』総目次

何年や 徽園学の現況 (二)	児玉 教授(演)	三毛雄次郎(演)	文学 ○浪花文学第一号 ○護國之権									
雑録			第六十四号 (明治26・4・20)									
青燈の下 (一) ショーペンハウエル・ 懐旧頌談 (二) ドストイエフスキイ・ 偉人の歌												
基督教事業独立の問題												
文藻												
〔漢詩〕春雪・雪夜探梅												
〔新体詩〕福島中佐・郡司大尉												
都の花												
嵯峨野の秋草												
白楽天の王昭君の詩をまねて												
社会の敵 (一)												
批評												
高安三郎著「犠牲」												
大和田建樹著「通信文学全書」												
人見一太郎著「第二之維新」												
横井時雄著「宗教上の革新」												
ドストエフスキイ著「罪と罰」第二卷 訳「罪と罰」												
雑誌世界												
○小文壇 ○新国民第一号 ○九州教育雑誌 ○早稻田												
再び井上哲一郎氏に質す 蚕糸代用品 (三)												
論説												
平安朝の文学 (一)												
森林制度及其経済 (一)												
日本人種の弱点 (三)												
社会の敵 (一)												
批評												
高安三郎著「文學会の一員」												
谷 嘘 月 生 喬												
菊 水 子												
高安三郎〔訳〕イプセン〔作〕	38	37	35	35	34	34	33	30	28	25	22	18
文学会の一員												
谷 嘘 月 生 喬												
菊 水 子												
高安三郎〔訳〕イプセン〔作〕												
高安三郎著「雲峯生逸人」												
A 静軒 B 逸人	46	45	45	45	45	44	43					
雲峯生逸人												
高安三郎著「藤田小次郎が従軍の詩を訳して 社会の敵 (一)」												
高安三郎著「靈山餘香」												
青燈の下 (一) 天才・梅倫と蘆騒 井上哲一郎氏と高橋五郎氏と												
柏木 義田												
松山 高吉												
市原 盛宏												
横田 安止												
南風子												
松山 高吉												
市原 盛宏												
横田 安止												
南風子												
柏木 義田												
1												
17 12 9 6												
20												
39 37 34												
30 30 28 26												

プルターク英雄伝

批評

桜痴居士著「東鑑拌賀巻」

不思庵 訳「罪と罰」第一編

露山人合著「獨逸文壇六大家列伝」

准后源親房撰「校正標註神皇正統記」

矢部新作著「ウエリントン」

内村鑑三著「紀念論文コロムブス功績」

附コロンブス伝、肖像地図入

猪熊夏樹著「革命小史」

増田知著「福島中佐歎迎軍歌」

雑誌世界

○青年活教育第一号 ○三編第一号 ○評論第一号

前号「社会の敵」の中止誤

第六十五号 (明治26・5・20)

『同志社文学』総目次

同志社文学  
宗教と文学と  
論説  
森林制度及其經濟  
平安朝の文学 (一)  
日本人種之弱点 (四)

坂口 栄	41	教育宗教の衝突 (一)
国語国文		日本画沿革考 (一)
日本画沿革考 (一)		文藻
文藻		〔漢詩〕歩新島先生脱日本時韵
〔漢詩〕歩新島先生脱日本時韵		寄懷友人某在米國・聞友人某亡
寄懷友人某在米國・聞友人某亡		親寄此詩・御苑看梅・北野
親寄此詩・御苑看梅・北野		看梅二首・祇園看垂枝桜
看梅二首・祇園看垂枝桜		〔新体詩〕美尾之夜嵐 (一)
〔新体詩〕美尾之夜嵐 (一)		損害と侮辱と (一)
損害と侮辱と (一)		ドストイエフスキイ (作)
ドストイエフスキイ (作)		秋風吟客 (訳)
秋風吟客 (訳)		端經慈潛記
端經慈潛記		一見が浦の朝景色
一見が浦の朝景色		批評
批評		井上哲二郎著「教育と宗教の衝突」
井上哲二郎著「教育と宗教の衝突」		坂下龜太郎編「絵人幼年歴史」
坂下龜太郎編「絵人幼年歴史」		角田音吉著「水野越前守」
角田音吉著「水野越前守」		矢部五洲著「徳川家康」
矢部五洲著「徳川家康」		松浦政泰編「応用文章学」
松浦政泰編「応用文章学」		蜃氣楼主人編「義太夫文粹」上
蜃氣楼主人編「義太夫文粹」上		福地櫻痴著「櫻痴滑稽談」
福地櫻痴著「櫻痴滑稽談」		

柏木 義円	14	大谷首次郎
大谷首次郎	19	浜玉円
浜玉円	23	岡沈龍
岡沈龍	27	坂本義夫
坂本義夫	27	松籬山人
松籬山人	28	寒梅小史
寒梅小史	30	傍観生
傍観生	35	A .
A .	38	B .
B .	39	静軒
静軒	39	逸人
逸人	39	静軒
静軒	39	逸人
逸人	39	静軒
静軒	39	生
生	39	雲峯
雲峯	39	南子
南子	6	安止
安止	1	高吉
高吉	8	横田
横田	11	風子

『同志社文学』総目次

大和田建樹著「狂言評註」 内村鑑三著「基督教徒のなぐさめ」 田中達著「教界十傑」 久津見息志著「耶穌教衝突論」 桜井成明著「希臘孝子群立比物語」 文界漫言	文藻
前号「平安朝の文学」の内止誤	損害と侮辱 (二)
第六十五号 附録	ドストイエフスキイ(作)
左伝を読む 此羽織	秋風吟客(訳)
壇之浦夕日の名残	イプセン(作)
万国宗教會議	社会の敵 (三)
山路 弥吉 漣山人 空々生 小崎 弘道	高安 三郎(訳)
42 42 42 42	41 41 41 41
〔漢詩〕嵐峽賞花三首・万花園看牡丹 〔新体詩〕古人の詩をまねたる歌二首 〔漢詩〕晚春二首 〔新体詩〕古人の詩をまねたる歌二首 〔短歌〕三首 〔短歌〕三首 〔短歌〕三首 〔短歌〕三首	文藻
禁中夜作書与元九、白楽天 春夜洛城聽笛、李白 愛のうた	損害と侮辱 (二)
伊丹義衛・湯浅吉郎・橋本奇策 伊丹義衛・湯浅吉郎・橋本奇策 伊丹義衛・湯浅吉郎・橋本奇策 伊丹義衛・湯浅吉郎・橋本奇策	ドストイエフスキイ(作)
曙 春江 松山 高吉 曙 春江 松山 高吉 曙 春江 松山 高吉	秋風吟客(訳)
28 18 6 1 28 18 6 1 28 18 6 1 28 18 6 1	イプセン(作)
〔短歌〕三首 〔短歌〕三首 〔短歌〕三首 〔短歌〕三首	社会の敵 (三)
大和田建樹著「応用歌学」 蜃氣樓主人撰「義太夫文粹」下 山田寅之助纂訳「日約聖書便覽」 安原富次著「和漢訳文法」 桜癡居士更作「十二時会稽曾我」 雑誌世界	高安 三郎(訳)
浜 柏木 義円 浜 柏木 義円 浜 柏木 義円 浜 柏木 義円 浜 柏木 義円 浜 柏木 義円	文藻
11 3 1 11 3 1 11 3 1 11 3 1 11 3 1 11 3 1	損害と侮辱 (二)
同志社文学 基督教をして單調ならしむ勿れ (二) 論 説 日本画沿革考 (一) 講 論 眞理と宗教	ドストイエフスキイ(作)
11 3 1 11 3 1 11 3 1 11 3 1 11 3 1 11 3 1	秋風吟客(訳)
児玉亮太郎 美軒 小史 水崎 基一 素軒 学人	イプセン(作)
25 27 24 23 25 27 24 23 25 27 24 23 25 27 24 23	社会の敵 (三)
K·I K·I K·I K·I	高安 三郎(訳)
34 33 33 32 34 33 33 32 34 33 33 32 34 33 33 32	文藻

『同志社文学』総目次

○文舞台第一号	○思想第一号	○一点紅	○眞理					
○三籟	○基督教青年	○禁酒矯風	○平民文學					
寄書								
同志社宗教博物館設立の趣意								
前号の社説に就て								
坂田君の寄書に答ふ								
第六十七号 (明治26・7・20)								
同志社文學								
新に編輯に當るの辞								
勅語濫用の弊害破せざる可ひや								
論説								
新約聖書編纂歴史								
詩人と理想								
文藻								
〔漢詩〕送小崎先生之米国								
〔新体詩〕太田錦城が詩を擬ねて								
〔短歌〕一首								
〔新体詩〕須磨の浦風								
夕残の雪								
損害と侮辱と	(三)							
ドストイエフスキイ(作)								
秋風								
吟客(訳)								
第六十八号 (明治26・8・20)								
○同志社教育会	○ビーアル氏送別会	○看病婦学校第						
六回卒業式	○理科学校卒業生研究報告会	○理化学校						
卒業生紀念	○卒業式	○女学校卒業式	○女学校同窓会					
○小崎校長送別会	○同志社校友会	○教員の出入						
○四方素氏								
記事								
北風	北風	北風	北風	北風	北風	北風	北風	北風
は	は	は	は	は	は	は	は	は
き	き	き	き	き	き	き	き	き
子	子	子	子	子	子	子	子	子
津下紋太郎	中瀬古六郎							
39 37								
42 42 42 42 42 42 42 41 41								
42 42 42 42 42 42 42 41 41								
37								

〔取消・前号文藻欄の伊丹義衡氏の和歌〕

雜錄

理學博士長井長義先生  
告別之辭

批評

「宇宙神教確論」

「眞理」第四十五号

「基督教青年」第四号

「文学界」第五号

「浪華文學」第五号

「文芸」第十号

「文舞台」第二号

「九州文學」第三十五号

○記事

六回卒業式 ○理科学校卒業生研究報告会 ○理化学校

卒業生紀念 ○卒業式 ○女学校卒業式 ○女学校同窓会

○小崎校長送別会 ○同志社校友会 ○教員の出入

○四方素氏

34 33 32 32 32 32 32 32 32

ドストイエフスキイ(作)

34

同志社文學

第六十八号

(明治26・8・20)

中等教育に於ける德育私見

(一)

論 説

経済と道徳との関係

日本画沿革考 (三)

神学校

文藻

〔漢詩〕偶感

〔短歌〕一首

三首

〔新体詩〕鐘の声

春の夕父母の御墓の山をとみて

産神祭

雜 錄

米国女文學者 (一)

ちり籠 (一)

茅渟海端艇旅行記

新刊紹介

「衝突斷案」を読む

徳永文学講演 「The Skeleton of A Philosophy of Religion」

野口善四郎英訳

武田仰天子作 「蝦夷録」

大和建樹著 「紀行文選」

丸山 通一	浜 玉円	丸山 通一	1
津下紋太郎	坂本 義夫	津下紋太郎	
池袋 清風	し、こ、	池袋 清風	
橋本 曙月	橋本 曙月	橋本 曙月	
松籟 花影	花影 子	松籟 花影	
山人	山人	山人	

## 觀 潛

- 三事以て井上博士に望む ○内藤趾叟氏 ○歴史研究  
の妨害 ○一種の俗論 ○北里博士 ○帝国大学の任務  
○板垣伯及び時事翁の宗教談 ○大内青巒居士 ○吾人  
信徒亦省みざる可らず ○世人の諂る寧ろ理あり ○宣  
教師中此人あるか ○児童の神の思想 ○教育界の慶事  
○宗教記者に一言 ○フォルク教授永逝 ○小崎校長京  
都出発 ○デュンス氏の来京 ○同志社神学校 ○入学  
申込者 ○留学生
- や や や や や や  
黄 薔薇 黄 薔薇 黄 薔薇 黄 薔薇 黄 薔薇  
北 風 薔薇 薔薇 薔薇 薔薇 薔薇 薔薇  
生 生 生 生 生 生 生 生

36 36 36 36 36 36 36 36 36 36 35 35 35 35 35

第六十九号 (明治26・9・20)

同志社彙報

同志社文学  
中等教育に於ける德育私見

- 近衛公爵蜂須賀侯爵 ○本校の入学生 ○新教師
- クラーク氏神学館 ○同志社教会 ○同志社校友会員
- 近況 ○同志社女学校 ○加藤勇一郎氏 ○本年の卒業生 ○大島正健氏 ○同志社の体育

論 説  
記憶に就て (ト)

日本画沿革考 (四)

読史の栄

文 藻  
〔新体詩〕撫子

菊水子に  
松風に

雜 錄

米国女文學者 (二)  
ケデー教授の書簡

アレキサンデル・フラン・奮ボールド

雞肋漫筆

觀 澜

- 方今对外思想 ○对外思想的小写真 ○人種問題と宗教 ○对外的非基督教論 ○反対論者の陣立 ○衝突論の余波 ○弟作の為に氣焰を吐く ○怒軒先生の十宣去 ○忠言甘きこと聲に似たり

1

第七十号 (明治26・10・20)

George le Folk 氏肖像

同志社文学

故リュートナント・フォーケ教授を追悼す  
道友某氏の書簡

我儕は何故に教会に入りしか

論 説

社会改造的ユトピア一班

北海道に來りて

シ・エム・ケデー

美軒 小史  
〔漢詩〕須磨雜詞 三十首

〔短歌〕二 首  
聞坂本君遊須磨宿海山樓遙有此寄  
フォーク先生を思ひて 四首

文 藻  
〔新体詩〕悲 歌

其代りには此写真

一 笠 納 納 坂 佐々木多門  
笠 影 高 久 岡 了 治 木多門  
庵 子 三 治 高 吉 治 義夫

23 22 22 22 22 19

12 8 4 2 1

『同志社文学』総目次

		論 説
富士紀行	雜 錄	記憶に就て
故植木校盛氏の身体、骨相、性質、氣風、及嗜好		英雄崇拜と宗教
竹越与三郎著「基督教伝記」	新刊批評	信仰の力幾何ぞ
三谷久太郎著「基督教の根柢」		
月刊雑誌「心海」		
坂田貞之助著「基督教々理略史」		
「小文林」		
同志社彙報		
○独乙人ダルトン氏之来校 ○横井時雄氏之来校 ○故		
フォーク氏追悼会 ○同志社文学会 ○同志社演説会		
○各学校入学生 ○四年生の各分科 ○同志社の外國語		
○同志社教会 ○安息日学校 ○勵精会 ○同志社		
教育会 ○同志社英文学会 ○キャプテンゼンス氏		
○同志社校外大演説会 ○同志社野外大運動会 ○同志		
社政法学校講談会		
児玉生 24		
浜田正稲 33		
山本慎尚 1		
42 42 42 41 41 40		
〔短歌〕六首	文藻	
〔新体詩〕少年の死を追憶して		
花影の君へ		
題しらず		
諸大家の著作風	雜 錄	
ちり籠 (二)		
各国貨幣制度		
新刊批評紹介		
小崎弘道著「基督教論」		
岡本監輔著「耶蘇新論」		
英語雑誌「ゼー・ジャパン・エバンジェリスト」		
宮崎八百吉著「ヲルヅヲルス」		
田中謙著「熟語文範文之資料」		
桜庭居士著「大久保彦左衛門」		
大和田建樹著「淨瑠璃評註」		
眉山人「一枚拾」		
第七十一号 (明治26·11·20)		
黃黃秋かか玄玄	樟溪学人	
薇薇江いい子	坂田貞之助	
生生生生子	花陵生	
38 37 37 37 36 35	18 14 9	
35 34	26 25 23 22	
31 29 26	26 25 23 22	
藤田軍太	松籟山人	
則水菴主人	柳城生	
椎蔭生	菊水漁徒	
26 25 23 22	26 25 23 22	

幸田露伴「枕頭山水」

「早稻田文学」第五十号

「北辰」第七号

「函館公論」第一号

「東北文學」第一号

「裏錦」第十二号

「王辰会雑誌」第六十六号

寄贈雑誌

同志社彙報

○竹内種太郎氏 ○大島正健氏 ○小野瓢郎氏 ○加藤

勇次郎氏 ○ゼンス氏 ○福島綱雄氏 ○送別会

○公開演説会 ○同志社文学会 ○理科学校講談会

○歓迎会 ○同志社に於ける天長節 ○秋期大運動会

○三角同盟 ○小崎成章氏 ○検査部新設 ○尹致昊來

る ○本学年普通校名譽特待生 ○ベレー氏 ○マイヤ

女史 ○デフォレスト及ゴルドン夫人 ○幻燈会

○ベース・ボール・マッチ ○関西新聞雑誌記者懇親会

○フォーク教授追悼会

黄 黄 黄 黄  
薇 薇 薇 薇  
生 生 生 生

39 38 38 38 38 38 38 38

使徒保羅を論じて當今の時弊に及ぶ

論 説

評論と創作 (ト)

産業保護の方針

同志社の使命

人類学管見

風子 [訳]

〔新体詩〕徳大寺実定卿 文藻

小夜嵐

雜錄

事務家教育の方法について

某女子の写真を領して

新刊

松島剛著「近世地文学」

中村花瘦著「こぼれ秋」

紅葉山人著「きとこ心」

本社へ寄送せられし雑誌

坪内雄蔵〔演〕

小野英二郎

村田勤

難風子 [訳]

松籬山人

明浦漁史

ヘルプ〔著〕

樂天子 [訳]

坂本義夫

南風子

O.S.

秋江

47 47 46 46 46

42 39

34 32

28 26 10

6

『同志社文学』総目次

同志社文学  
德育問題未だ解釈せられず

第七十二号

(明治 26 · 12 · 20)

1

同志社彙報  
○同志社講義会 ○神学講談会 ○政法講談会 ○同志  
社教会親睦会 ○同志社演説会 ○キヤブチン・ゼンス  
氏 ○同志社文学会 ○宮川経輝氏  
○ラーソン・ツード氏の

『同志社文学』総目次

帰校	○ 校長の音信	○ 青年会館開館式
第七十三号	(明治27・1・20)	
目 次 (和文・英文)		
同志社文学		
両刃の剣		
同志社の特色發揮せざる可らず		
論 説		
評論と創作 (一)		
旧神学と新神学 (一)		
文 藻		
〔漢詩〕時事所感・対雪有感		
歳晚所感・元旦作		
贈某・書懷		
〔新体詩〕峰の墓		
〔短歌〕七首		
三 首		
〔新体詩〕枯野菊		
花 牧 野	坂 本 義 夫	34
橋 涙 信	井 上 通 泰	31 30 30
塩 井 浩 堂	吉 郎	29 27 26
大 島 正 健		26
坂田貞之助 [著]		20
坪内雄蔵 [演]		11
ライマン・アボット [著]		2
新島 裏 [演]		1
海外思想		
進化と道徳 (ハックスレー氏の新論—「ポピュラル・サイエンス・モンスター」より)		
盲人と美術 (〔フヒロソフニカル・リビューより〕)		
宗教と道徳 (ヴィルヘルム・ベンデル氏の議論—「フヒロソフニカル・リビューより」)		
新刊		
高橋五郎訳 「人生哲学」		
薬師寺政次郎 著 「社会的経済策」		
福池源一郎著 「桜痴新編」		
村上信著 「浪六漫筆」		
吉本 裏 「桜花園男児の気象」		
無名氏著 「木戸少佐」		
「婦人矯風雑誌」		
寄贈雑誌		
同志社彙報		
○ ニュートン祭 ○ 元旦 ○ 新年夜会 ○ 開校 ○ 同志社各学校教員親睦会 ○ 小崎校長の音信 ○ 近来の毎朝講話 ○ 初週連夜祈禱会 ○ 山県俊三君 ○ クラーク神		
甲午元旦書感		

槐園と鉄幹の両先生にもの申さむ		小	月
坂本 義夫	34	36	
花 牧 野	31 30 30		
橋 涙 信			
塩 井 浩 堂	29 27 26		
大 島 正 健	26		
坂田貞之助 [著]	20		
坪内雄蔵 [演]	11		
ライマン・アボット [著]			
新島 裏 [演]	1		
海外思想			
進化と道徳 (ハックスレー氏の新論—「ポピュラル・サイエンス・モンスター」より)			
盲人と美術 (〔フヒロソフニカル・リビューより〕)			
宗教と道徳 (ヴィルヘルム・ベンデル氏の議論—「フヒロソフニカル・リビューより」)			
新刊			
高橋五郎訳 「人生哲学」			
薬師寺政次郎 著 「社会的経済策」			
福池源一郎著 「桜痴新編」			
村上信著 「浪六漫筆」			
吉本 裏 「桜花園男児の気象」			
無名氏著 「木戸少佐」			
「婦人矯風雑誌」			
寄贈雑誌			
同志社彙報			
○ ニュートン祭 ○ 元旦 ○ 新年夜会 ○ 開校 ○ 同志社各学校教員親睦会 ○ 小崎校長の音信 ○ 近来の毎朝講話 ○ 初週連夜祈禱会 ○ 山県俊三君 ○ クラーク神			

42 41 41 41 41 40 40 40 39 38 37 36

## 学館開館式

同志社案内

社告

- 本誌代金について三件 ○東京市中の購読者諸君に広告す ○本誌広告取次 ○本誌大売捌所及売捌所

第七十四号 (明治27・2・23)

目次(英・和両文)

## 同志社文学

社会風紀の振奮を論じて敢て

兩本願寺派に問ふ

独立問題に就て

## 論説

哲学の勧め

聖書の権威

旧神学と新神学(1)

ライマン・アボット(著) 坂田貞之助(訳)

森久万人

アルブレクト(演)

21 14 6

2 1

## 新刊

「學園花壇」

寺山星川著「淨瑠璃史」

桜痴居士著「俠客春雨傘」

「通俗仏教新聞」

「文學界」第十三号

「早稻田文學」第五十七号

寄贈雑誌

説教家は詩人たるべし

坂本義夫  
はな子  
椎蔭生〔訳〕  
モンロー・ロイス  
椎蔭生〔訳〕

## 雑録

二宮峰男氏新嘉坡に之くを送る

帰家

同志社クラーク神學館建設報告摘要

## 海外思想

米國文學衰頽の原因(「フォーラム紙」より)

シトニー・ヒシャル〔著〕  
椎蔭生〔訳〕

坂本義夫  
はな子  
椎蔭生〔訳〕

35 34 31

40

40 40

41 41 41 41 41 41 40 40

文藻  
 「短歌」思草二十九首  
 「新体詩」梅咲く方  
 開闢之時雨  
 秋田の義民(1)

菊水子  
 大西祝  
 雲峯生  
 松箱山入  
 29 28 27 25

同志社彙報  
 ○新島先生第四周年紀念会 ○立食 ○兵事講談会  
 ○開館式 ○同夜 ○連夜説教 ○同志社文学会 ○同志社教育会 ○學術講談会 ○支那旅行談 ○二宮峰男氏 ○横井時雄氏 ○端艇競争 ○予備校兔狩

『同志社文学』総目次

○紀元節の祝会 ○会食 ○前号目次  
 同志社案内  
 社告  
 ○本誌代金について三件 ○東京市中の講読者諸君に広  
 告す ○本誌広告取次 ○本誌大売捌所及売捌所

第七十五号

(明治27・3・23)

市原 盛宏

〔新体詩〕告天子

秋田の義民 (二)

須磨琴

やれごろも

〔短歌〕二首

雜録

恭奉賀大婚二十五年祝典

安倍井磐根君

海外思想

教育と遺伝 (ウェスリー・ミル・リ・ポピュラー)

サイエンス

金の将来 (フォウラム雑誌)

U・K・生

U・K・生

山田美妙著「村上義光錦旗風」

下村孝太郎〔演〕  
吉田作弥〔演〕  
ライマン・アボット〔著〕  
坂田貞之助〔訳〕

14 12 7 4 1

○紀元節の祝会 ○会食 ○前号目次

同志社案内

社告

○本誌代金について三件

○東京市中の講読者諸君に広

告す ○本誌広告取次 ○本誌大売捌所及売捌所

〔漢詩〕春雲・梅村声笛 谷喬  
 辞家・上京途上口占 追悼新島先生・夜坐偶成  
 薬婦行

坂本義夫

大島湘川

池袋清風

谷喬

坂本義夫

大島湘川

池袋清風

坂本義夫

大島湘川

37 36 35 34 32 31 29 27 26 26 26 26 25 25 24 24 24

寒沢振作著「家政の菴」

尾崎紅葉外「くらべ馬」

百足登著「琴曲之菴」

佐々木信綱「明治歌集」

「幼年立志篇」

巖谷漣著「幼年玉手函」「春駒」

大和田建樹訳「歐米名家詩集」

幸田露伴著「日蓮上人」

「百人一首講義」

「東京文学」

「京都家禽新報」

同志社彙報

「漢詩」咏垂絲桜

〔短歌〕八首

〔新体詩〕棄婦行

雜錄

○同志社演説会 ○対第三高等中学校十鳥俱楽部水上運動

○握手慰効会 ○同志社政法講談 ○同志社に於ける

天婚二十五年式祝会 ○平子貞誠君の永眠

同志社案内

○雑誌代金について三件 ○投書について二件 ○本誌

広告取次 ○本誌大売捌所及売捌所

同　社　告

○雑誌代金について三件 ○投書について二件 ○本誌

広告取次 ○本誌大売捌所及売捌所

## 第七十六号

(明治27・4・23)

同志社文学

基督教界近時の傾向

論　説

日本近海に於ける外國漁獵船に就て

山川隆一郎

不文居士

大谷音一郎

10

緒方維岳

13

雲　峯

19

嵯峨　谷　喬

18

鎌田正夫・池袋清風・雲峯生・橋本奇策

雲　峯

嵯峨　谷　喬

19

南　風　子

21

雲　峯　生

26

坂本　義夫

30

伊丹義衛君を悼む

海外思想

「マホメット教」と基督教

(ナインチン・センチウリー) マクス・ミレル〔著〕

か　い　・　生　　訳

井上十吉英訳「実用和文英訳教授書第一篇」

新　刊

『同志社文学』総目次

戸川安完著「三百諸侯」	至誠	松山高吉	4
中央時論	滋賀文学	坂本義夫〔訳〕	9
同志社彙報	○予備校春期旅行 ○社員会の模様 ○神学講談会	ブルンチユリー〔著〕	36
○同志社春季水上大運動会 ○デビス教師将死に國に帰 らんとす ○伊丹義衛君之死去 ○ドクトル下山氏の來 校 ○エモルソン氏の來校 ○同志社二十六年度資産管 理委員よりの報告	神道起原	坂本長陽	36
第七十六号 附録	國家の眞誠なる目的	生	36
日本植物分類目録 (一)	諱神皇正統記		36
同志社案内	文藻		36
社会告白	〔漢詩〕春雨思風山・雨後訪風山		36
○本誌代金について三件 ○投書について二件 ○本誌 広告取次 ○本誌大売捌所及売捌所	服部他助		36
第七十七号 (明治27・5・23)	〔短歌〕筆のすさび 十一首		36
同志社文学	〔新体詩〕涙		36
三日月	坂本雲		36
服部他助	橋本奇策		36
1	バイロン〔作〕		36
日本植物分類目録 (一)	降〔訳〕		36
同志社案内	春		36
社会告白	秋		36
○本誌代金について三件 ○投書について二件 ○本誌 広告取次 ○本誌大売捌所及売捌所	江		36
第七十七号 (明治27・5・23)	合作		36
同志社文学	児玉龍山		36
三日月	松籟野史		36
服部他助	牛〔訳〕		36
1	Virchand R. Gandhi〔著〕		36
36	32 26	24	36
36	32 26	21	36
36	32 26	20	36
36	32 26	15	36

『同志社文学』総目次

<p>井上十吉英訳「英文忠臣蔵」 高橋章臣著「新編教育学」 小柴著「俳諧史伝」   <b>同志社彙報</b>  ○下村教授之演説 ○石神享氏之演説 ○浮田教授の帰校 一氏来校 ○長田時行氏 ○同志社討論会 輝氏</p>	<p>新刊  ○田原・丹波両ドクトルの講演 ○理化学校の縦覽 ○水上運動会 ○デヴィキス氏送別会 ○フォスター ○宮川経</p>	<p>39 39 39 39</p>
<p>第七十七号 同志社案内 社会告白 広告取次 ○本誌代金について三件 ○投書について二件 ○本誌</p>	<p>日本植物分類目録 (II) 服部 他助 5</p>	<p>論 説 清國形勢所見 人種と文明の關係 學問と政体の關係 神道起原 (II)</p>
<p>第七十八号 (明治27·6·23)</p>	<p>附録 海外思想 トルストイ伯の宗教及道德論 (II) (英國時事評論)</p>	<p>文 藻 〔漢詩〕 雜感四首・送人三首 客舍聞杜鵑 茲歲三月下旬与同志探月瀬梅 溪之勝得六絕</p>
<p>同志社文学</p>	<p>新刊  ○本誌大売捌所及売捌所 ○本誌代金について三件 ○投書について二件 ○本誌</p>	<p>浮田 和民 荒尾 精 浮田 和民 (演) 福地源一郎 (演) 松山 高吉 坂本 義夫 唐溪 楠瀬 象作 湯浅 吉郎 橋本 曙月 花影子 31</p>
<p>寄贈雑誌</p>	<p>新刊  山県雄社三著「大關王」 アレキサンデル著「旧約聖書人物談」 加藤直士訳「真 勇」</p>	<p>浮田 和民 荒尾 精 浮田 和民 (演) 福地源一郎 (演) 松山 高吉 坂本 義夫 唐溪 楠瀬 象作 湯浅 吉郎 橋本 曙月 花影子 31</p>
<p>建設の時代将に来らんとす</p>	<p>39 39 39 38 36 33 33 32 32</p>	<p>浮田 和民 荒尾 精 浮田 和民 (演) 福地源一郎 (演) 松山 高吉 坂本 義夫 唐溪 楠瀬 象作 湯浅 吉郎 橋本 曙月 花影子 31</p>

『同志社文学』編目次

- |             |             |             |           |
|-------------|-------------|-------------|-----------|
| 同志社彙報       | ○福地源一郎君の講演  | ○政法講談       | ○荒尾精君来る   |
|             | ○海老名彈正君     | ○宮川氏の再演     | ○同志社男子各学校 |
| 卒業式         | ○同志社校友会     | ○各学校大学部卒業論文 |           |
| ○同志社女学校卒業式  | ○京都看病婦学校卒業式 |             |           |
| 社告          |             |             |           |
| 広告          |             |             |           |
| 同志社生徒募集     |             |             |           |
| 同志社案内       |             |             |           |
| 社告          |             |             |           |
| 同志社生徒募集     |             |             |           |
| 広告取次        | ○本誌代金について三件 | ○投書について二件   | ○本誌       |
| ○本誌大売捌所及売捌所 |             |             |           |

1

39

実用教育論	市原 盛宏	9	7
東都現時の文学界	坪内逍遙〔演〕		
本邦女子の高等教育	松浦 政泰	15	
ショーペンハウエルの厭世觀を批評す	鎌田玄四郎		
文藻			
〔漢詩〕四条納涼 夏日偶成			
夏日山居一首・夏夜泛舟一首・			
夏夕即事・江樓夏夜・夏日登山			
喜雨			
〔新体詩〕伊丹義衛君を想ふ			
鴨河納涼			
孤島の殘月			
田家の曉色			
雑録			
卒業式祝詞	坂本 霽月		
維ルヘルム、フォン、奮ボールト	磯貝 雲峯		
草臥日記	橋本 曜月		
万有学	中井 弘		
海外思想	南風子〔訳〕		
英米家庭の比較 (フォーラム雑誌)	Kluge 〔著〕		
同志社生徒募集	草軒 学人		
同志社看病婦学校生徒募集	浅野源二郎		
戦争と和平			
論説			
プライスコリエール〔著〕			

39

36 34 32 31

30 27 26 24 24

18 15

68

## 『同志社文学』総目次

<p>新刊</p> <p>連山人著「日本昔懸」</p> <p>宇田川文雄他「小説百家選」</p> <p>吉山順吉訳「色情狂編」</p> <p>尾崎紅葉著「隣の女」</p>	<p>同志社彙報</p> <p>○政法学校 ○理科学校 ○図書館監督者 ○寮務</p> <p>○紀章 ○夏期休業 ○義捐金募集 ○三輪礼太郎の永眠</p> <p>○同志社校友会</p>	<p>同志社案内</p> <p>社会告白</p> <p>○本誌代金について三件 ○投書について二件 ○本誌広告取次 ○本誌大売捌所及売捌所</p>	<p>〔漢詩〕 荷露煎茶・初秋雜詩二首 秋館雨夜・寄懷友人在東都 田家雜詩</p> <p>題芸州侯古社壁間</p> <p>〔短歌〕 八首</p> <p>一 首</p>	<p>〔新体詩〕 池袋清風大人の婚儀を ことほきてよめる</p> <p>雜錄</p> <p>登富士山記</p> <p>消夏錄</p> <p>須磨浦の舟遊び</p>	<p>赤羽柳溪 鎌田亥四郎 原田二郎 守安富太郎</p> <p>王治本 木村襄園 山崎直次郎</p> <p>戸川残花 大谷音次郎 嘯月生 浅野藍水生</p>	<p>ショーペン・ハウエルの厭世觀を批評す(一) 神の子及び人の子なる名称(一) 経済学と法律学(一)</p> <p>文藻</p>	<p>42 41 41 41 41</p>
<p>坪内逍遙(演)</p>	<p>同志社文学</p> <p>再び戦争と平和を論じ併せて宣教師諸君に一言す</p>	<p>第八十号 (明治27・9・19)</p>	<p>5 1</p>	<p>新刊</p> <p>同志社彙報</p>	<p>高橋章臣著「新編学校管理法」</p>	<p>や・の</p>	<p>鎌田亥四郎 原田二郎 守安富太郎</p> <p>19 14 10</p>
<p>東都現時の文学界(一)</p>	<p>論説</p>	<p>42 41</p>	<p>19 14 10</p>	<p>19 14 10</p>	<p>19 14 10</p>	<p>19 14 10</p>	<p>19 14 10</p>

『同志社文学』総目次

同志社案内		
社会告白		
○本誌代金について三件	○投書について一件	○本誌
広告取次	○本誌大売捌所及売捌所	
第八十一号 (明治27・10・23)		
同志社文學		
教説	論説	
日本的文章	(一)	
相続論		
神の子及び人の子なる名称	(二)	
文藻		
〔漢詩〕七月盛夏之候發西京赴北海道頤覽 寒溫差異甚		
〔短歌〕一首		
〔漢詩〕再出札幌		
〔短歌〕一首		
〔漢詩〕偶感		
〔短歌〕一首		
〔漢詩〕聽豐島之大捷有感		
〔新体詩〕九月十四日の夜の詠 ならびに歌		
〔小崎同志社校長歓迎の歌〕		
鴨緑江の月・鳳山の虫		
夜半		
薩摩琵琶凱歌の曲		
〔英訳〕Over Biwa Lake		
〔短歌〕五首		
福地源一郎	8	1
守安富太郎		
原田二郎	18	
	22	
		1
藤樹先生之墓に詠や		
家庭銷夏		
藤樹先生之墓に詠や		
海外思想		
塵埃の効用 (ボム・ラーラー・サイエンス・モンスター)		
雑録		
森口日東生		
坂本義夫		
M. L. Gordon		
伊丹義衛		
藤波春江		
木村褒園		
K. T. 生驥月		
橋本暉月		
花影子		
藤波春江		
鎌田正夫		
25	25	25
湘川	湘川	湘川
漁史	漁史	漁史
25	25	25
湘川	湘川	湘川
漁史	漁史	漁史
25	25	25
湘川	湘川	湘川
漁史	漁史	漁史
25	25	25
新刊		
藤田隆三郎著「海上万国公法」		
大和田建樹著「新体日本歴史」		
川嶋柴山著「独立戦史」		
日清戦争実記 (博文館)		
小山愛治著「草莽危言」		
「早稲田文学」第七十一号		
「小宇宙」第一・第二号		
44	44	43
43	43	43
42		
	41	
		32
		31
		26
		25

「岡崎文藻」 第七号

同志社彙報

- 小崎校長を迎ふ ○軍隊の西下を送る ○校長歓迎会
- 小野教授之北堂 ○奈良県同志社同窓会 ○我校出身者  
者の近況 ○我校生徒従軍者 ○長崎武之助君の来信
- 我校生徒の恤兵部献金 ○同志社教會牧師歓迎会
- 本学年新入学生 ○中井弘君逝く ○同志社同窓諸君

ハガク

同志社案内

社 告

- 本誌代金について三件 ○本誌への投書について一件
- 本誌広告取次 ○本誌大売捌所及売捌所

第八十一号

(明治27・11・23)

同志社文学  
信仰上の経験

論 説

国史研究の必要要

法律学と経済学の関係

(1)

長陽生

守安壹一郎

12

小崎 弘道

1

新刊

鈴木共編「明治軍歌」

「日清戦争史記第七編」

大和田建樹著「明治文學史」

「明治軍人譚」

「はい雁」

同志社彙報

○衆議院議長樺本正隆君 ○河嶋醇君の演説

○日清戦

〔漢詩〕 枕上即事・夜坐・聞砧声

外一首

〔短歌〕 四首  
十三首

香波 橋瀬 象作

木村 菊園

山口芳子・森脇糸子・斎藤沢野

殿村倉子・伊藤初代・不破祐子

末光信子・浜田文子・岩崎菊枝

高木久子・原雪子・坂田咲子

山崎直次郎

〔英語〕 Beside the Sea

〔新体詩〕 露

鶴嶽江名残の円影

遊女房

雑録

我娘

秋季大運動会

不定齋 蘇泉 居士

松籟 山人

鶯溪

居士

M. L. Gordon

花影子

香波 橋瀬

象作

44 44

〔漢詩〕 枕上即事・夜坐・聞砧声

外一首

〔短歌〕 四首  
十三首

香波 橋瀬 象作

木村 菊園

山口芳子・森脇糸子・斎藤沢野

殿村倉子・伊藤初代・不破祐子

末光信子・浜田文子・岩崎菊枝

高木久子・原雪子・坂田咲子

山崎直次郎

〔英語〕 Beside the Sea

〔新体詩〕 露

鶴嶽江名残の円影

遊女房

雑録

我娘

秋季大運動会

不定齋 蘇泉 居士

松籟 山人

鶯溪

居士

M. L. Gordon

花影子

香波 橋瀬

象作

17 16 16

33 33 33 32 32 32

28 23

21 19 19 18

『同志社文学』総目次

<p>争奪見談 ○ 稲垣満次郎君の演説 ○ 選校生 ○ 予備          校生徒の氣焰 ○ 新島夫人 ○ 我校よりの恤兵部献金          ○ 生徒議会 ○ 神学研究会 ○ 上州同窓会 ○ 校友会          ○ 新島紀念図書 ○ 我校出身者の近況          同志社案内          社告          「本誌代金滞納者へ」</p>	<p>ほの見し面影</p>
<p>社告</p>	<p>天帝子</p>
<p>○ 本誌代金について三件 ○ 本誌への投書について二件          ○ 本誌広告取次 ○ 本誌大売捌所及売捌所</p>	<p>坂本義夫</p>
<p>第八十三号 (明治27・12・20)</p>	<p>出口虎次</p>
<p>日清問題と日本教育家 尿玉亮太郎</p>	<p>平瀬龍吉</p>
<p>論説</p>	<p>天民生</p>
<p>言語学管見 南風子</p>	<p>建田鶴助子</p>
<p>我党と北海道 森口喜之助</p>	
<p>文藻</p>	
<p>〔漢詩〕聞我軍占領旅順口喜賦 坂本義夫</p>	
<p>近事雜詠 (鶴岡改号)雪堂 居士</p>	
<p>〔新体詩〕斥候兵 松齋 山人</p>	
<p>同志社案内          社告          ○ 本誌代金について三件 ○ 本誌への投書について二件</p>	<p>天帝子</p>
<p>新刊</p>	<p>天帝子</p>
<p>野々村金五郎著「拿破崙戦史」          渡山人編「花咲爺」          松井広吉編「鴉片戦史」          塚越芳太郎著「近松門左衛門」</p>	<p>天帝子</p>
<p>同志社案報</p>	<p>天帝子</p>
<p>○ 皇太子殿下奉迎送 ○ 德富蘆一郎君の「時事論」 ○ 同志社演説会 ○ 戰捷大運動会 ○ 旅順口占領奉祝会          ○ 同志社写真帖 ○ 神学研究会 ○ 大討論会 ○ 体格検査 ○ 阿部充家君の旅順口占領実見談 ○ 本学年奨学金受領者及び特待生 ○ 本学期の終り ○ 我校出身者の近況 ○ 生徒議会臨時会</p>	<p>天帝子</p>
<p>32 32 31 31 31</p>	<p>天帝子</p>
<p>29 28 25 21 16</p>	<p>天帝子</p>

『同志社文学』総目次

○本誌広告取次 ○本誌大売捌所及売捌所

第八十四号 (明治28・1・23)

故長崎武之助君肖像

明治二十八年を迎ふ

故新島先生の五週忌を迎ふ

論説

我國民の膨脹性

戰勝後の教育

文藻

〔漢詩〕乙未元旦

送友人某從第三軍上征清之途

乙未新正  
聞梅涯清士在横浜遙有此寄

寒溪捕魚圖

〔短歌〕七首

三首

二首

五首

一首

〔新体詩〕元旦

松の緑

新島先生を懷みて

雑録

告文

長崎武之助君を悼む

「煙草の軍歌」につきて

基督祭の宴

新刊

横井時雄著「我邦の基督教問題」

鎌田亥四郎訳「有神新論」

高橋章臣著「新編倫理學」

「京都家禽新報」

同志社彙報

○新年祝賀式 ○新年夜会 ○桜庭十蔵君の来翰 ○タ

イムス通信員 ○寄附金 ○兎狩り ○新島夫人

○同志社教会の授洗式 ○第五回神学研究会 ○芝生の

美觀 ○大極殿の瓦 ○小尉早瀬松二郎氏 ○長崎武之

助君追悼会

同志社案内

社告

同志社案内

○本誌代金について三件 ○本誌への投書について二件

○本誌広告取次 ○本誌大売捌所及売捌所

荒尾精

牧野虎次

吉郎

川生〔訳〕

チャアルス・デッケンス〔作〕

志川生〔訳〕

34 34 34 33 29

25 24 21 21

34 34 34 33 29

34 34 34 33 29

34 34 34 33 29

34 34 34 33 29

34 34 34 33 29

34 34 34 33 29

34 34 34 33 29

34 34 34 33 29

34 34 34 33 29

34 34 34 33 29

34 34 34 33 29

34 34 34 33 29

34 34 34 33 29

34 34 34 33 29

『同志社文学』総目次

第八十五号

(明治28・2・23)

道義的直覺  
第四回博覽会と矯風軍

論 説

条約改正の由来

日本に於ける同志社神学校の位地

文 藻

〔漢詩〕歩兵少尉長崎武之助氏

新島先生第五回忌辰墓前作

舍北搖落景物殊佳・偶然有作

良 麓

宇川盛三郎  
平瀬龍吉

10 8

4 1

論 説

坂本義夫

17

雪 堂 居士

18

吉 郎

18

讀人じゆず

18

〔短歌〕六首

一首

〔英訳詩〕Translation of Japanese

National Song

〔新体詩〕一本松

野菊の露

ト

社 告

M. L. Gordon  
雲 峯 子  
菊花 山 人

23 19 19

18

18

18

同志社案内

社 告

○本誌代金につき二件 ○本誌への投書につき二件  
○本誌広告取次 ○本誌大売捌所及売捌所

23 19 19

18

18

18

雜 錄

我郷出身の三老人

獨國將卒美談

青燈の下

北海の逸民

32 28 24

難解生

難 風

逆 浪

1

世界大の胸字

論 説

新 刊

尾崎行雄著「支那处分案」  
「普通学全科講義」  
「青年文」

同志社彙報

○故新島先生第二回紀念会 ○奉教紀念会及び祈禱会  
○中村栄助氏の北堂 ○発火演習 ○土倉龍次郎氏

○古藤重光氏 ○古谷久綱氏 ○牧野虎次氏 ○故長崎  
武之助君追悼会寄附金 ○同志社看病婦学校よりの看護  
婦 ○校紀振慶問題 ○紀元節祝会と威海衛祝捷会

○浅野源一郎氏 ○同志社の資本金 ○同志社生徒員数  
及府県別 ○図書館並各文庫書籍數 ○校友会員の近状  
○東京校友会員の軍事義捐 ○前後広告正誤

34 33 33 33

『同志社文学』総目次

条約改正の由来 (二)	宇川盛三郎
征清軍々人諸士に告ぐ	大島正健
文藻	
〔漢詩〕呂丁汝昌・伊丹義衛兄一周忌	坂本義夫
有作	
威海衛陥落	湘川漁夫
賀養老特典拝受者詞	雪堂湯浅吉郎
〔新体詩〕丁汝昌	良薦
亡友伊丹君を憶ふ	雲峯子
庭の鶯	黄薇生
字治行	おなじ人
雑録	
対滑辨妄序	荒尾精
北海紀遊	坂本権三郎
松陰の北堂	江村女史
新刊	33 33 32 32
松井応告著「露土戰史」	29 22 21
熊田子之四郎著「支那近世史」	
「文芸俱楽部」第二編	
同志社彙報	
○草津に於ける送迎会	
○第六回神学研究会	
○広瀬憲之氏	
○児玉瑚一郎氏	
○片山与太郎氏	
○田中平次郎	
8 4	
同志社案内	
社告	
○本誌代金について三件	
○本誌への投書について二件	
○本誌広告取次	
○本誌大売捌所及売捌所	
○校友会員の近状	
○同志社校友会本部	
及び上谷続の西氏	
○第七回神学研究会	
○フリツキガ	
ール追悼会	
○同志社写真帖	
○早瀬松一郎氏	
○高橋	
鷹藏君	
○故長崎武之助君	
○金沢巖氏	
○四方素氏	
第八十七号 (明治28·4·20)	
興國の時機に際し謹て我同胞に警告す	
論説	
条約改正の由来 (三)	
日本と合衆国との対照	
桓武天皇と今上皇帝の御盛業を贊す	
宗川盛三郎	
デーデーデヴィクス	
大谷音二郎	
婦人矯正会	
青年矯風団体	
良薦	
坂本義夫	
雪堂居士	
白藤花女史	
松籬山人〔訳〕	
〔短歌〕三首	17 11 7
〔新体詩〕アケディヤ物語 (一)	25 22 22
澳國詩人アナスタシウス・グリーン	逆浪

『同志社文学』総目次

薦田宗惠著「聖德太子」  
野嶋左文著「日本名勝地誌第五編」  
松尾音一郎編「基督教の歴史」  
立教学校文学会「八紘」

同志社彙報

○政法講談会 ○産業実地研究会 ○御鳳齋奉迎 ○予備校第四回修学旅行 ○新島夫人 ○博覧会に於ける矯風運動 ○小崎校長 ○同志社員会 ○同志社各学校卒業生職業別一覽表 ○同志社の決算 ○牧野寅次君よりの来翰 ○畠瀬松二郎氏の来翰

同志社案内

社告

○本誌代金について三件 ○本誌への投書について二件  
○本誌広告取次 ○本誌大売捌所及売捌所

28 28 28 27 27